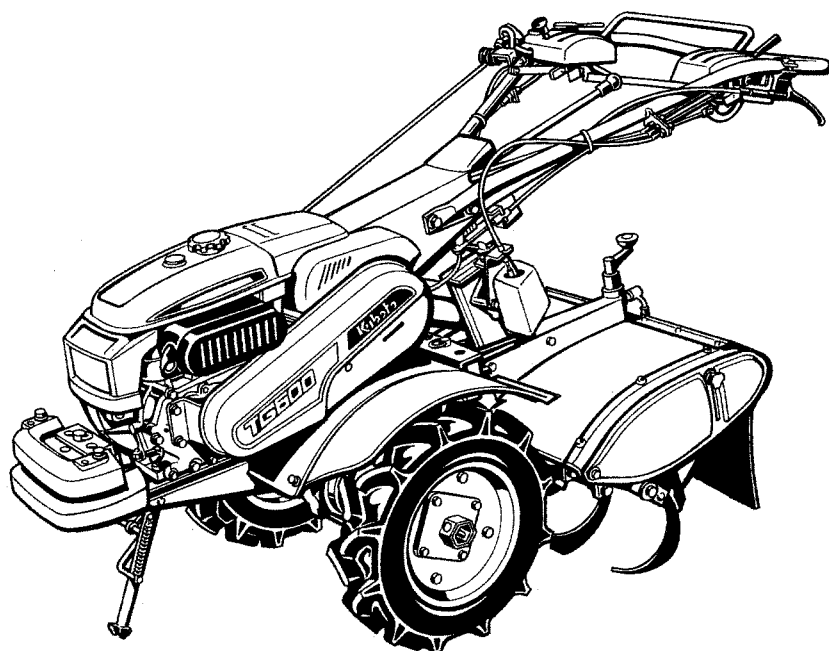


クボタターラー

取扱説明書

TG600(R)



J-2739

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために、操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。



ガソリン給油



燃料ゲージ “下限”



ギヤーオイル給油



燃料ゲージ “上限”



チョークレバー

専門用語の説明

PTO 動力取出軸

はじめに

このたびはクボタ製品をお買い上げいただきありがとうございました。

この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され，お買い上げの製品が秀れた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになった後必ず大切に保存し，分からないことがあったときには取出してお読みください。なお，製品の仕様変更などにより，お買い上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

▲ 安全 第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた▲の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。

なお，▲表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買い上げいただいた購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

■ 注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。



警告： 注意事項を守らないと，死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。



注意： 注意事項を守らないと，けがを負うおそれのあるものを示します。

重要： 注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補足： その他，使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は，農業機械であり，農作業以外では使ってはいけません。
夜間作業はしないでください。

目次

▲安全に作業するために ▲-1

サービスと保証について 1

もうおぼえられましたか? ●テラー各部の名称と装置の取扱い

テラー各部の名称と装置の取扱い 2

もうおぼえられましたか? ●ロータリ各部の名称と装置の取扱い

ロータリ各部の名称と装置の取扱い 4

作業前にこれだけチェック ●作業前の点検について

作業前の点検について 6

このように運転します ●上手な運転のしかた

ならし運転(最初の10時間程度使用まで) 10

発進のしかた 11

エンジンの始動のしかた 10

ロータリ着脱のしかた 12

停止のしかた 11

こんなときどうする? ●簡単な手入れと処置

エンジンオイルの交換 14

操向クラッチの調節 17

エアークリーナエレメントの清掃とオイル交換 14

洗車時の注意 17

フィルタポットとフィルタエレメントの清掃と交換 15

電気配線及びヒューズ 18

燃料パイプの交換 15

ロータリケースのオイル交換 18

点火プラグの調整・清掃 15

副チェーンケースのグリース補充 18

ミッションオイルの交換 16

耕うん軸へのグリース塗布 19

主クラッチケーブルの調節 16

バックけん制装置の調節 19

新しいベルトに交換する場合 16

ロータリクラッチケーブルの調節

駐車ブレーキの調節 17

(ロータリ付仕様) 19

タイヤ空気圧 17

後輪の取付け 19

長い間使わないときは? ●長期格納時の手入れ

使用後の手入れ 20

燃料の抜取り 20

保管 20

エンジン始動不良を防ぐために 20

テラーを運搬するとき

自動車(トラック)への積込み、運搬 21

付記

主要諸元 22

標準付属品 23

走行速度一覧表 22

オプション部品 23

爪軸回転速度一覧表 23

主な消耗部品一覧表 24

トラブルと処置

エンジンが始動しないとき 26

エンジンが振れる、異音が発生する 26

エンジンの回転が上がらない、不安定、出力が不足するとき 26

安全に作業するために

必ず読んで
ください。

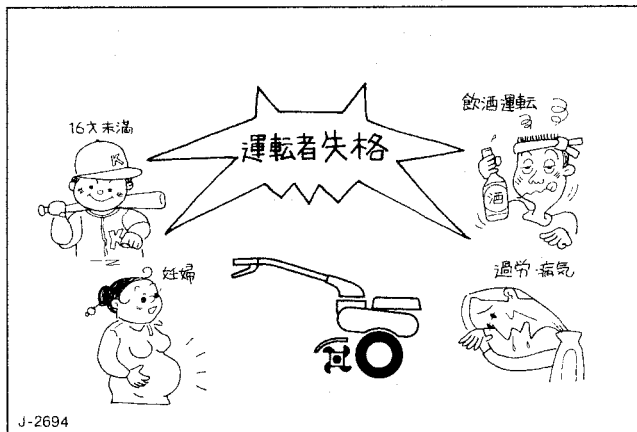
本機をご使用になる前に、必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で、安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため、ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが、これ以外にも、本文の中で  警告・ 注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

1. 運転する前に

機械の運転操作、特に主クラッチ“切”はすばやくできるように、よく練習し、充分になれてから作業してください。

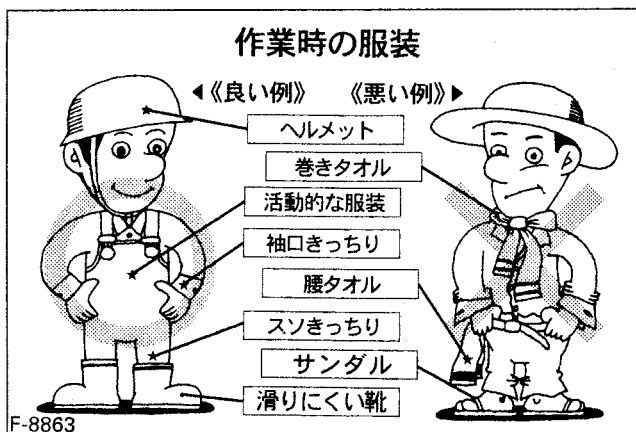
次の項目に該当する場合は機械を使用しないでください。

- * 本書及びラベルの内容が理解できない人
- * 視力不足等のため表示内容が読めない人
- * 飲酒時や体調が悪い時また妊娠中の人
- * 16才未満の人
- * ハンドルを操縦する体力に自信のない方



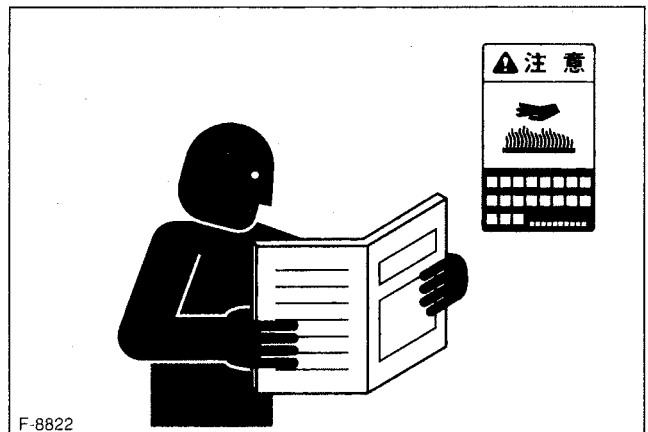
■使用する人の服装は

- * 回転部分や操縦装置に引っかかり事故の原因になる、だぶついた服、腰タオル等はやめてください。
- * ヘルメット、安全靴、保護メガネや手袋などを必要により着用してください。



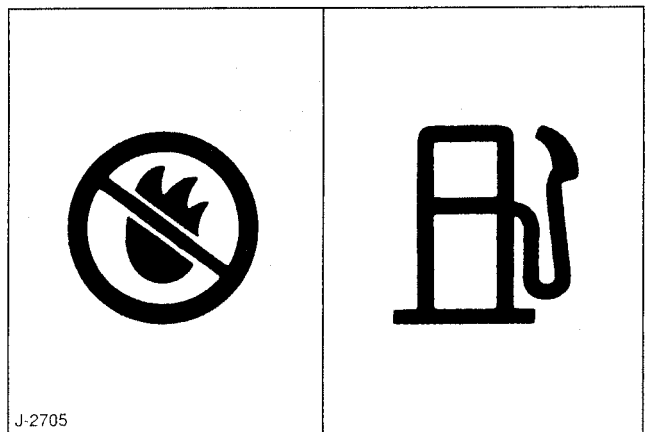
■他人に貸すときは

事前に運転のしかたを教え、“取扱説明書”を必ず読んでもらってください。



■給油・注油するとき【火気厳禁】

燃料の給油・補給時は必ずエンジンを停止し、規定量以上入れないでください。こぼれた燃料はふきとり、煙草を吸ったり火気をちかづけないでください。エンジン回転中やエンジンが熱い間は火災の恐れがあるので給油・補給はしないでください。



■周囲への注意

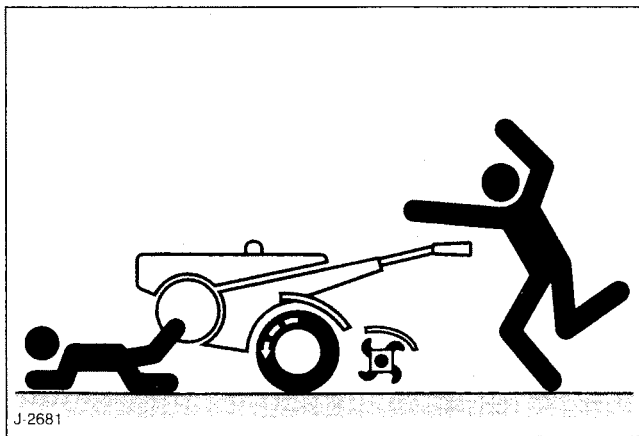
- * 子供、ペットを近づけないでください。
- * 見物人を近くに寄せないでください。
- * 共同作業者がいる時は、互いに注意してください。

安全に作業するために

2. 始動するとき

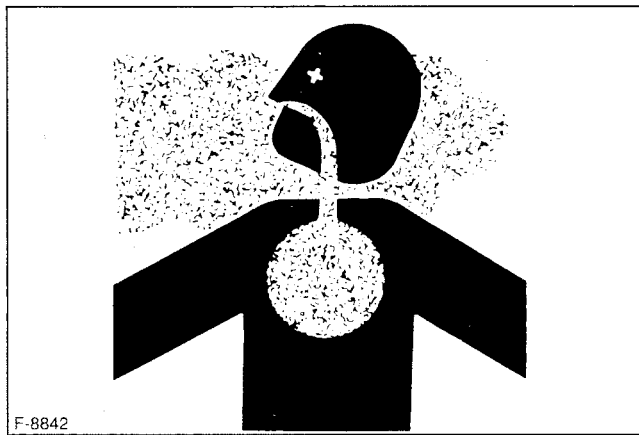
■エンジンをまわすとき

*必ず本機、ロータリ（作業機）の主クラッチレバーを“切り”変速レバーは“中立”にして、付近に人（特に子供）をちかづけないでください。もし主クラッチや変速が入っていると車体や爪軸が急に動いて事故になる恐れがあります。



■排気ガスに注意

排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがある換気の悪い所（ハウス、車庫等）では使用しないでください。

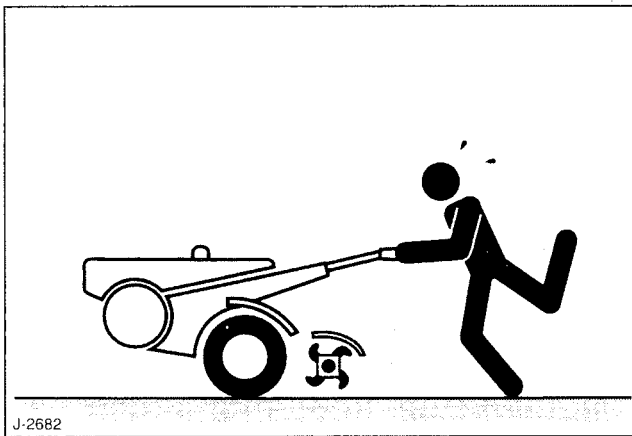


3. 移動、作業するとき

■発進するとき

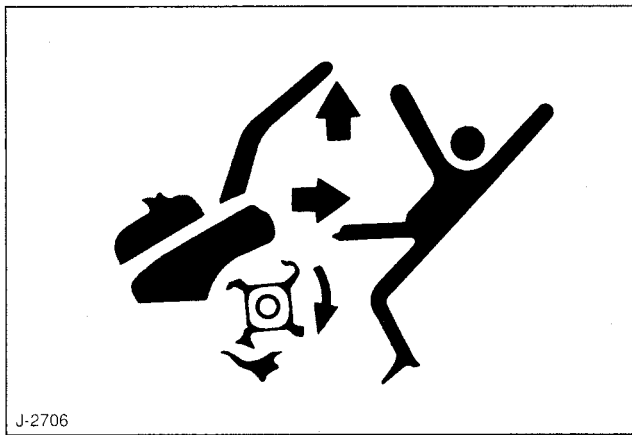
車速の最低速で主クラッチレバーの“入”はゆっくり、“切”は素早くの操作を習熟した上で使用してください。

小走りになるようなスピードを出したり、急発進、急旋回はしないでください。



■ロータ装着時後進は禁止

ハンドルが跳ね上がり回転する爪に巻き込まれる恐れがあるので“後進”に変速しないでください。



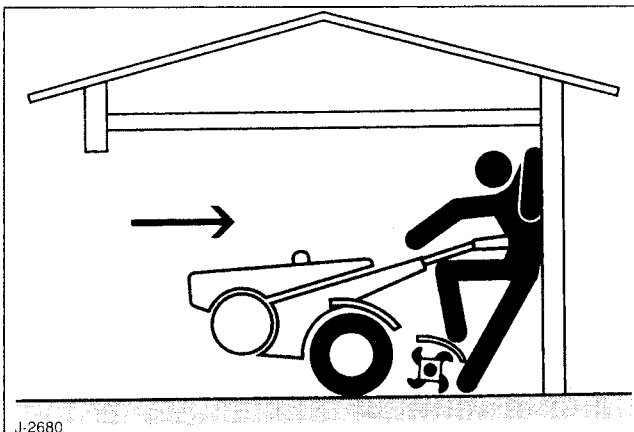
■移動するとき

移動の際は、必ずロータリの回転を止めてください。



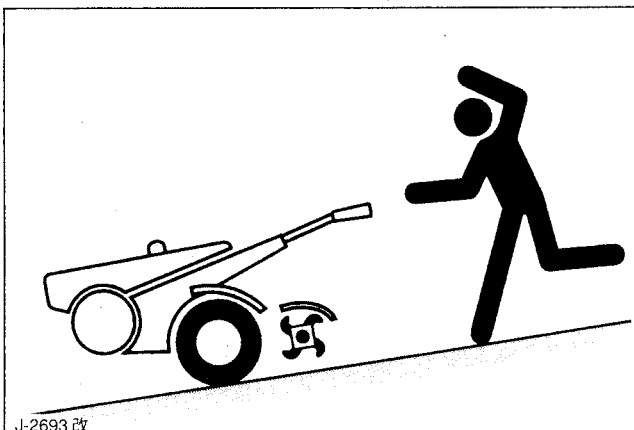
■ハウス、車庫等での移動

後方の壁、支柱、天井など障害物にはさまれる恐れがありますので遅い車速で、また、主クラッチレバーが素早く操作できる体勢で、後進してください。



■坂道を移動するとき

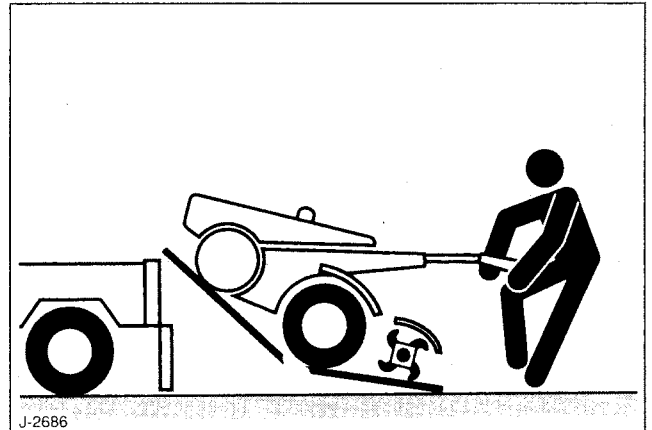
坂道、ほ場の出入り、畦の乗り越え、積込み・積降ろしの際に、主クラッチ、操向クラッチを“切”ったり、変速を“中立”にすると、機体がおもわぬ方向に進み危険ですので絶対に行なわないでください。



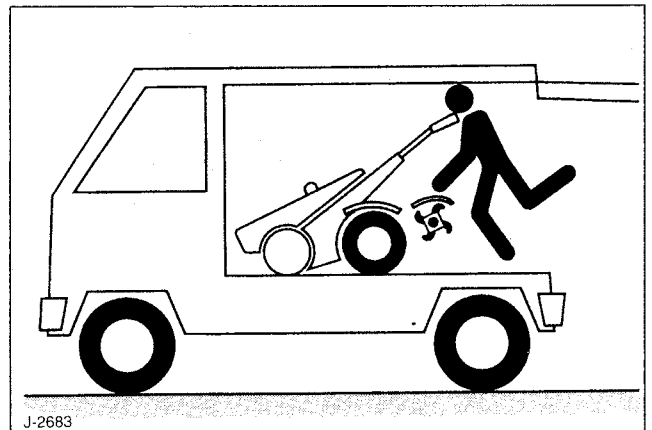
■積み・降ろしするとき

アユミ板は丈夫ですべり止めのあるものを使用し、確実に固定してください。

足元に注意し、車速は最低速で、上りは“前進”下りは“後進”で行い、途中で主クラッチ、操向クラッチを切ったり、変速操作をしないでください。



車などで運搬するときは、必ず荷台に天井がない車を使用してください。



！ 安全に作業するために

■回転している爪に注意

ハンドル部を持ち上げ旋回する時、足下および周囲に充分注意しないと回転する爪に巻き込まれる恐れがあります。

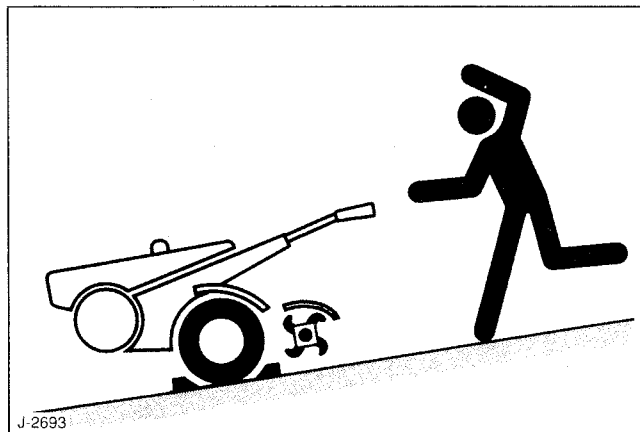


J-2708

■機体から離れるとき

エンジンは必ず停止させ平坦で安定した場所に駐停車します。

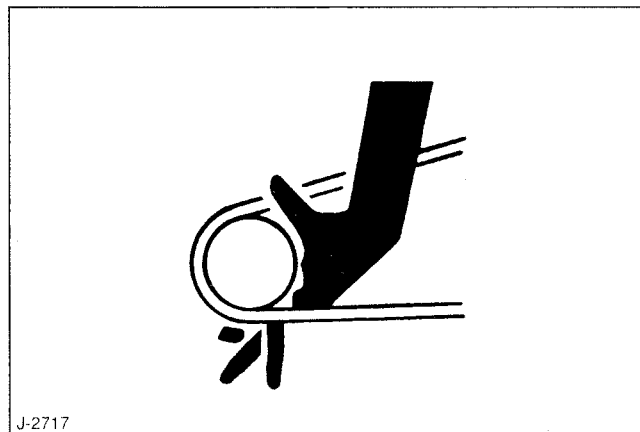
やむなく傾斜地に止めるときは車止めをしてください。



J-2693

■PTO軸を使用するとき

回転軸に巻き込まれる恐れがあるのでまわりにカバーや囲いをしてください。使用しない時はカバーを組み付けてください。



J-2717

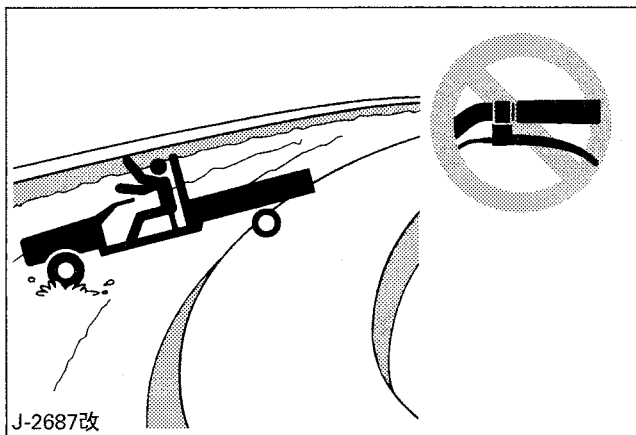
■トレーラ走行するとき

トレーラを取付けたこのテラーは道路運送車両法の小型特殊自動車の保安基準に適合しません。そのため、公道を走行すると道路運送車両法に違反します。公道以外を移動するときは

*トレーラには運転者のほかには乗車させないでください。

*見通しの悪い所では一旦停止して、降りて左右を確認してください。

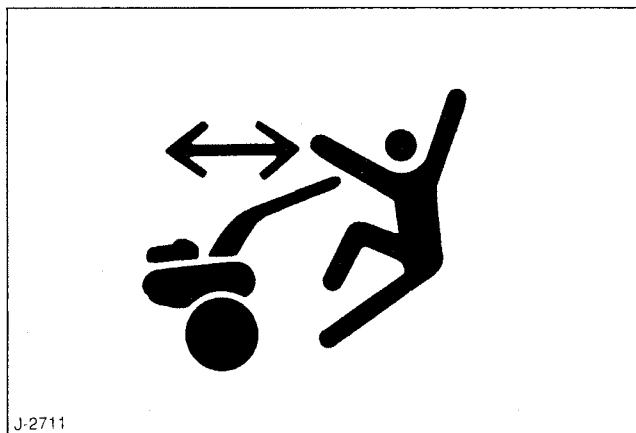
*トレーラ走行時、操向クラッチを使って旋回すると、思わぬ方向に曲がり転倒のおそれがありますので、操向クラッチは握らないでください。必ずハンドル操作で旋回してください。



J-2687改

■耕うん作業時

車軸（ロータ）、爪軸（ロータリ）作業では機体か思わぬ方向に飛び出し転倒や人身事故の恐れがありますので、主クラッチは素早く切ってください。作業前に、ほ場の状態をよく確認して、石・材木・針金・空カン・空ビン等を取除いてください。

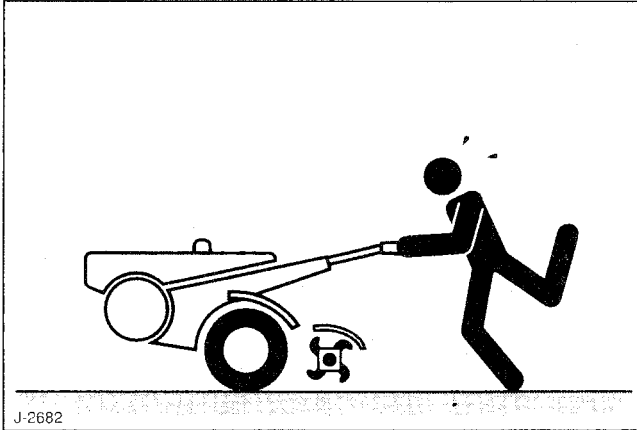


J-2711

必ず読んで
ください。

■ほ場が硬いとき

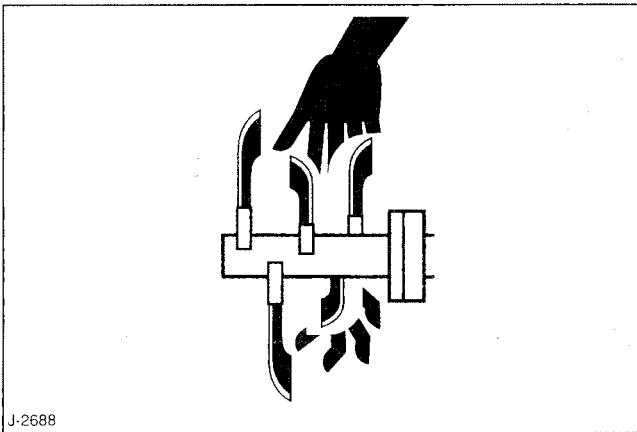
硬いほ場では車速を遅い目にして、耕深も浅い目で作業を行なってください。



4. 作業が終わった時

■掃除をするとき

車軸（ロータ）爪軸（ロータリ）等に巻き付いた草、ワラ、泥土等を取り除く時は必ずエンジンを停止してください。



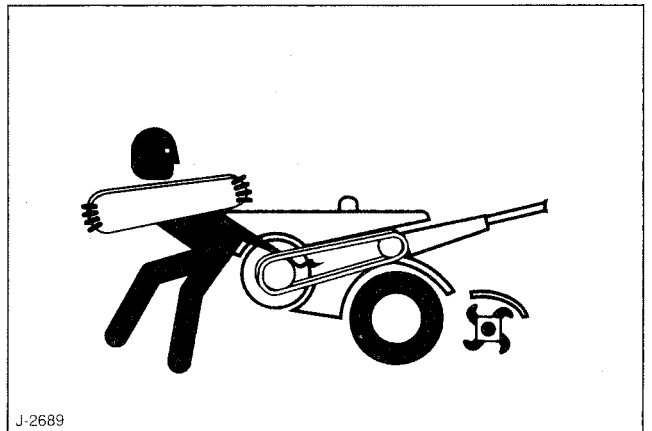
5. 点検、整備をするとき

点検、整備、アタッチメントの脱着などは機械が転倒しない平坦な所にスタンドを立てエンジンを止め、高温部が冷めてから行ってください。



■カバー類は必ずつける

ベルトカバーなどの防護装置を取り外す場合は必ずエンジンを停止して、作業後は取り外したカバー類は元通り組み付けてください。又作業機（ロータリ）を外した時はPTO軸にカバーをつけてください。



点検、整備、アタッチメントの脱着などは機械が転倒しない平坦な所にスタンドを立てエンジンを止め、高温部が冷めてから行ってください。

安全に作業するために

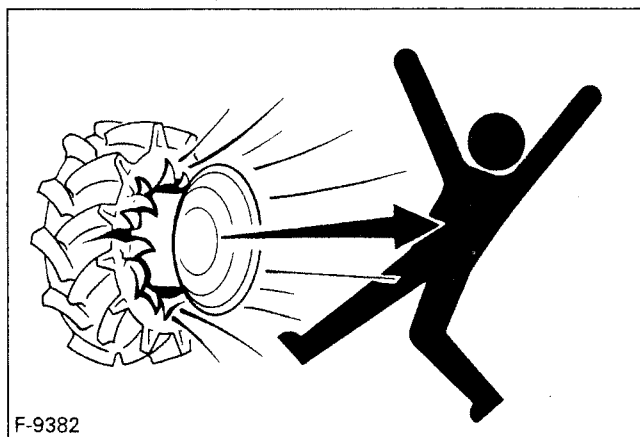
■タイヤの整備

タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載している規定圧力を、必ず守ってください。

空気の入れ過ぎは、タイヤ破裂のおそれがあり、死傷事故を引き起こす原因になります。

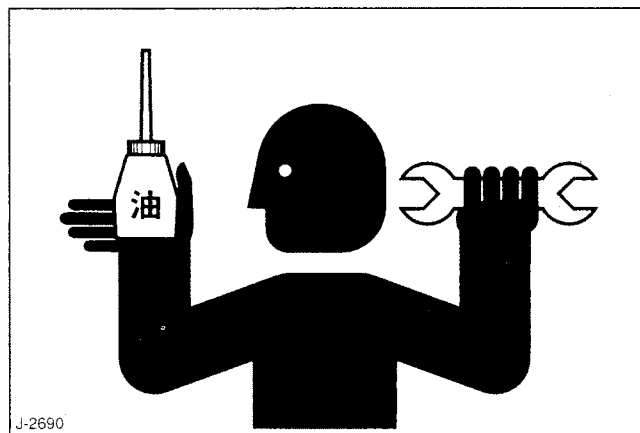
タイヤに傷があり、その傷がコード(糸)に達している場合は、使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。

タイヤ、チューブ、リムなどの交換、修理は、必ず購入先にご相談ください。(特別教育を受けた人が行なうように、法で決められています。)



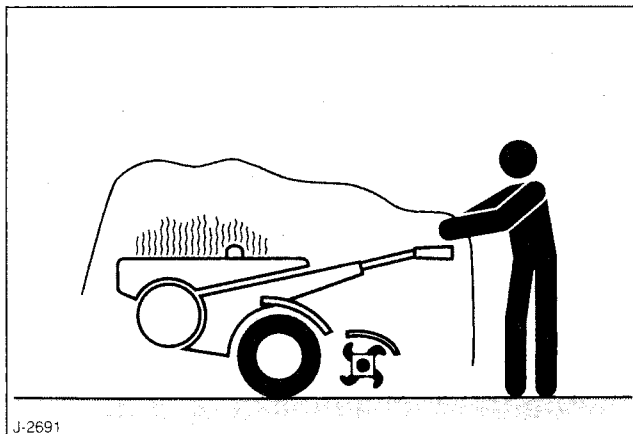
■1年毎の定期点検を

機械の整備不良による傷害事故などを未然に防止するため1年毎に定期点検、整備を受け特に燃料パイプは2年毎に交換して安全に作業出来るようにしてください。



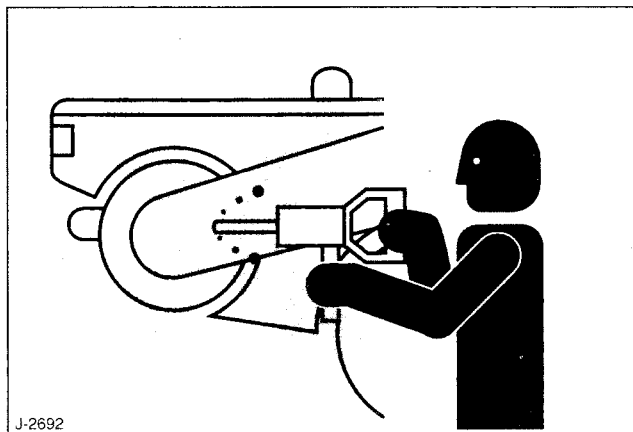
■格納するとき

機体に保管用カバーをかけるときは火災予防のため高温部が冷めてから行なってください。



■機械の改造禁止

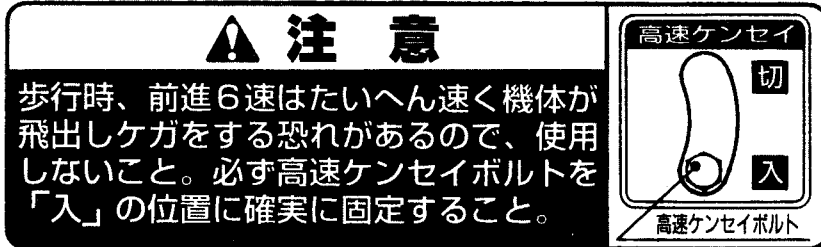
機械を改造しないでください。改造すると機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながる恐れがあります。



必ず読んで
ください。

6. ▲表示ラベルと貼付位置

① 品番 KK211-4745-1



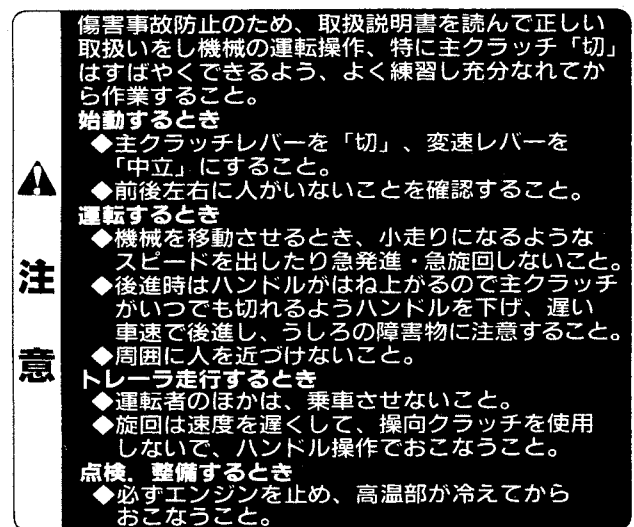
② 品番 61592-4812-1



③ 品番 61592-4833-1



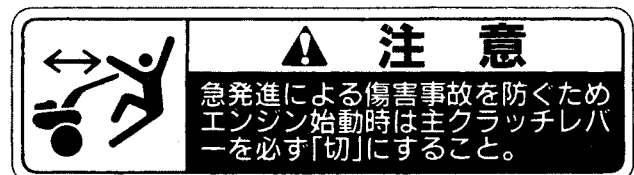
④ 品番 64071-4822-1



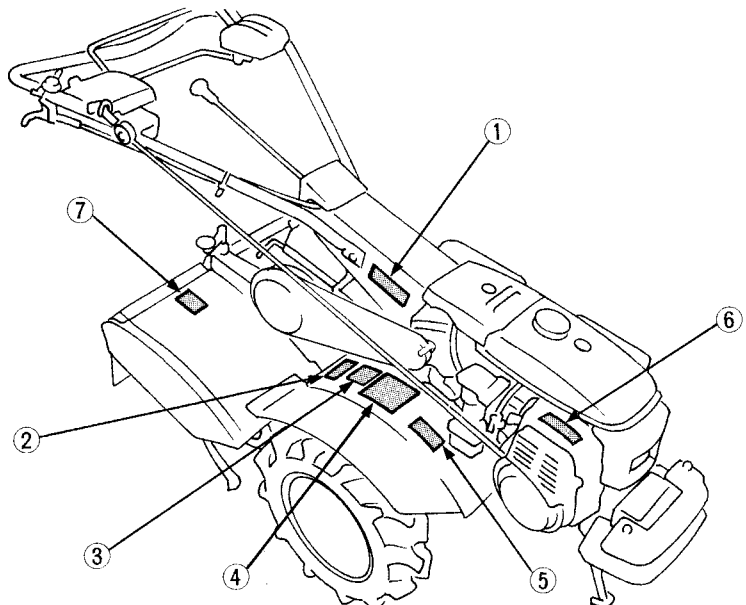
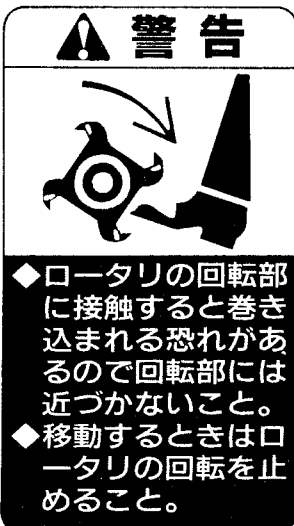
⑤ 品番 60802-4828-1



⑥ 品番 60932-4823-1 [TG600-N仕様のみ]



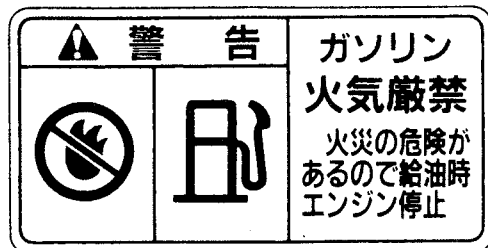
⑦ 品番 64071-4881-1



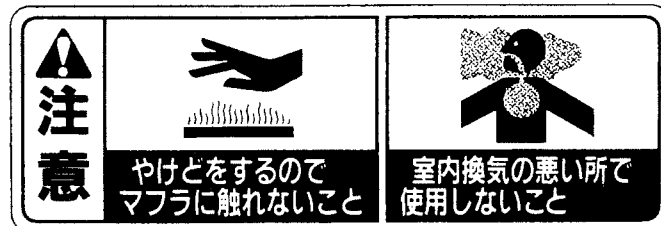
安全に作業するために

必ず読んで
ください。

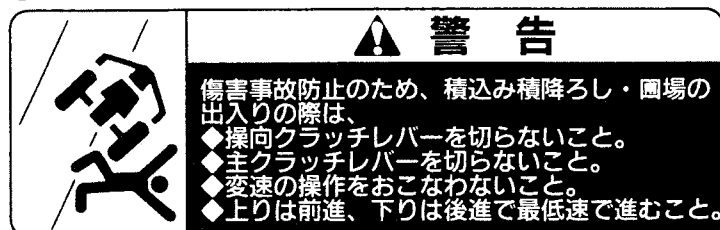
① 品番 60932-4821-1



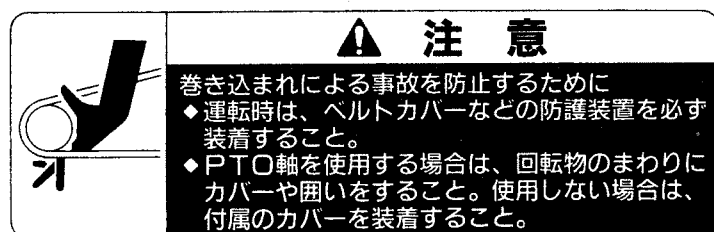
② 品番 60932-4825-1



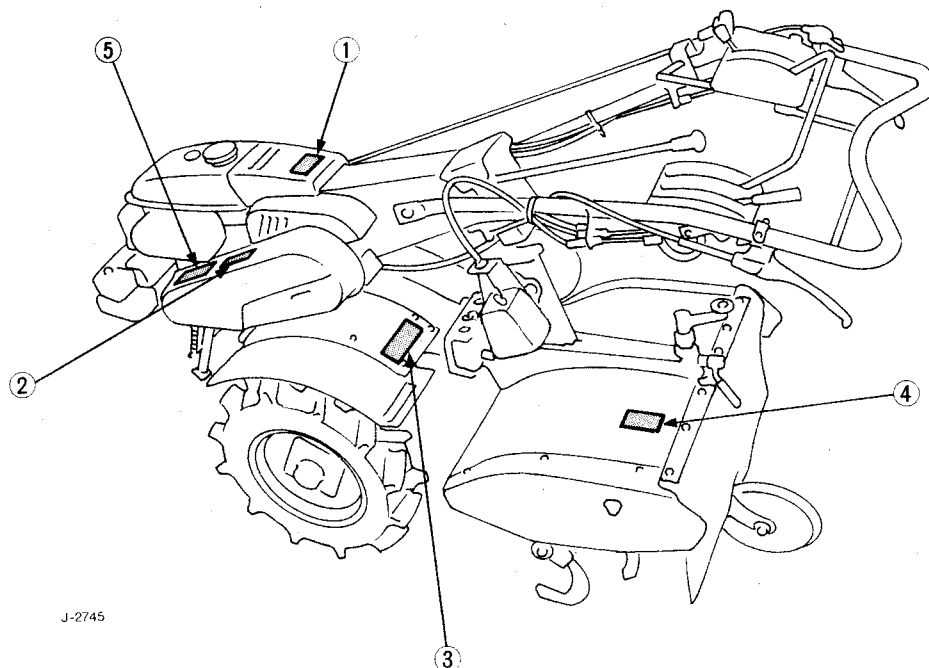
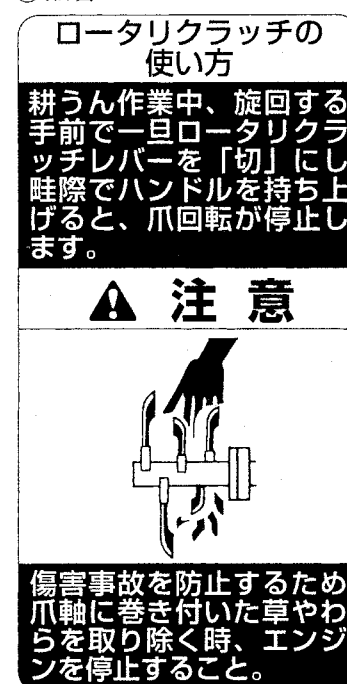
③ 品番 64071-4841-1



⑤ 品番 KK221-4750-1



④ 品番 KK226-3564-1



J-2745

7. ▲表示ラベルの手入れ

(1) ラベルは、いつもきれいにしておいて傷つけないようにしてください。

もしラベルが汚れている場合は、石鹸水で洗い、やわらかい布で拭いてください。

(2) 高压洗浄機で洗車すると、高压水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高压水を直接ラベルにかけないでください。

(3) 破損や紛失したラベルは、製品購入先に注文し、新しいラベルに貼替えてください。

(4) 新しいラベルを貼る場合は、貼付け面の汚れを完全に拭取り、乾いた後、元の位置に貼ってください。

(5) ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは、ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

この製品には、保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

■ご相談窓口

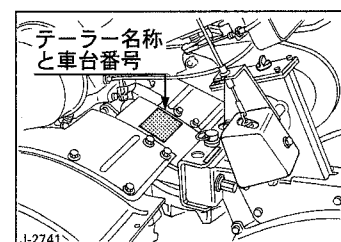
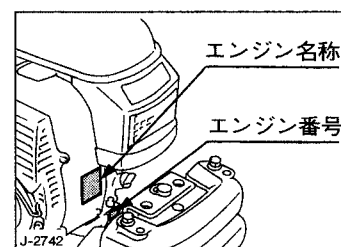
ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は、お買上げいただいた購入先に、それぞれ"ご相談窓口"を設けておりますのでお気軽にご相談ください。

その際 (1)ディーラー名称と車台番号

(2)エンジン名称とエンジン番号

を併せてご連絡ください。

なお、部品ご注文の際は、購入先に純正部品表を準備しておりますので、そちらで相談ください。



警告

*機械の改造は危険ですので、改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカー保証の対象外になるのでご注意ください。

◆安全鑑定適合番号

クボタTG600 … 21062

■補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期限)は製造打ち切り後9年と致します。

ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。



注意

*公道でのトレーラ走行はできません。

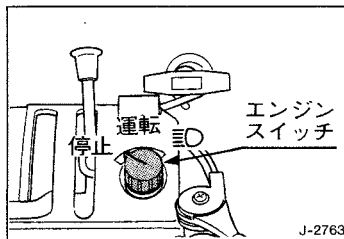
このディーラーは道路運送車両法の小型特殊自動車の保安基準に適合していない為、公道でのトレーラ走行はできません。

もうおぼえられましたか？

●テラー各部の名称と装置の取扱い

エンジンスイッチ

- エンジンの停止・運転，ライトの点灯に用います。
(ライトはエンジン運転時のみ点灯)
- 停止…エンジン停止位置
- 運転…エンジン運転位置
- ≡○…ライト点灯位置
(エンジン運転時)



主クラッチレバー

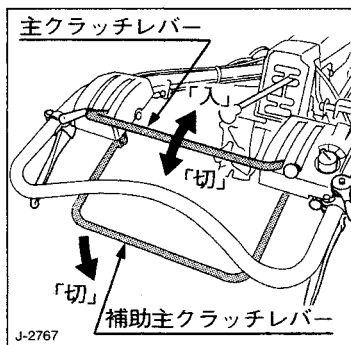


注意

- *主クラッチの接続はゆっくり行なってください。
(特にバック時)

補助主クラッチレバー

- レバーを下側に押すと主クラッチが切れます。

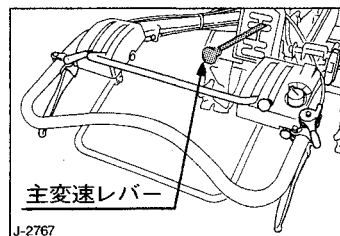
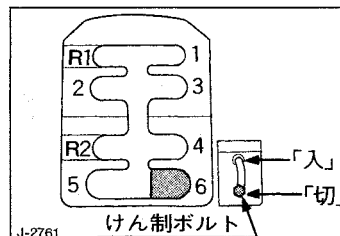


主変速レバー



注意

- *変速操作は主クラッチを“切”ってから行なってください。
- *走行中は変速しないこと。
- *前進6速はたいへん速いので危険です。歩行作業時(トレーラ走行時以外)は必ず高速けん制ボルトを“入”の位置に固定すること。
- 前進6段，後進2段に変速できます。
前進6速を使用(トレーラ走行)する時は，けん制ボルトをゆるめ，“切”の位置へ切換えてください。
使用後は必ず“入”位置へ戻しておいてください。
- ロータリクラッチレバーが“入”の時，主変速レバーは“後進”には入りません。

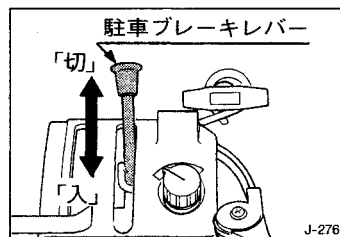


駐車ブレーキレバー



注意

- *駐車ブレーキ作動中は操向クラッチは使用しないでください。ブレーキが作動しません。
- レバーを手前に引くとブレーキがかかります。
- レバーを前方に押すとブレーキが解除されます。



チョークレバー

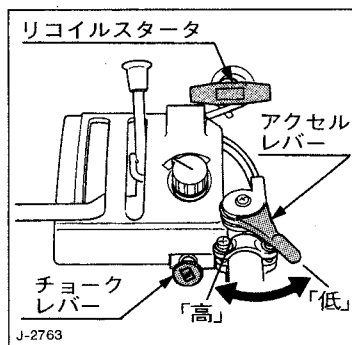
- エンジン始動時に使用します。

アクセルレバー

- エンジン回転数を調整します。

リコイルスタータ

- 主クラッチレバーが“入”状態でリコイルスタータを引張ると、主クラッチレバーは自動的に“切”位置に戻ります。



操向クラッチレバー(右)

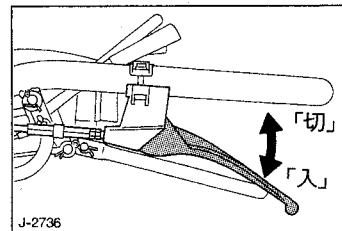
操向クラッチレバー(左)



警告

*トレーラ作業時や坂道では絶対切らないこと。

- 左側のレバーを握る……左に旋回します。
- 右側のレバーを握る……右に旋回します。



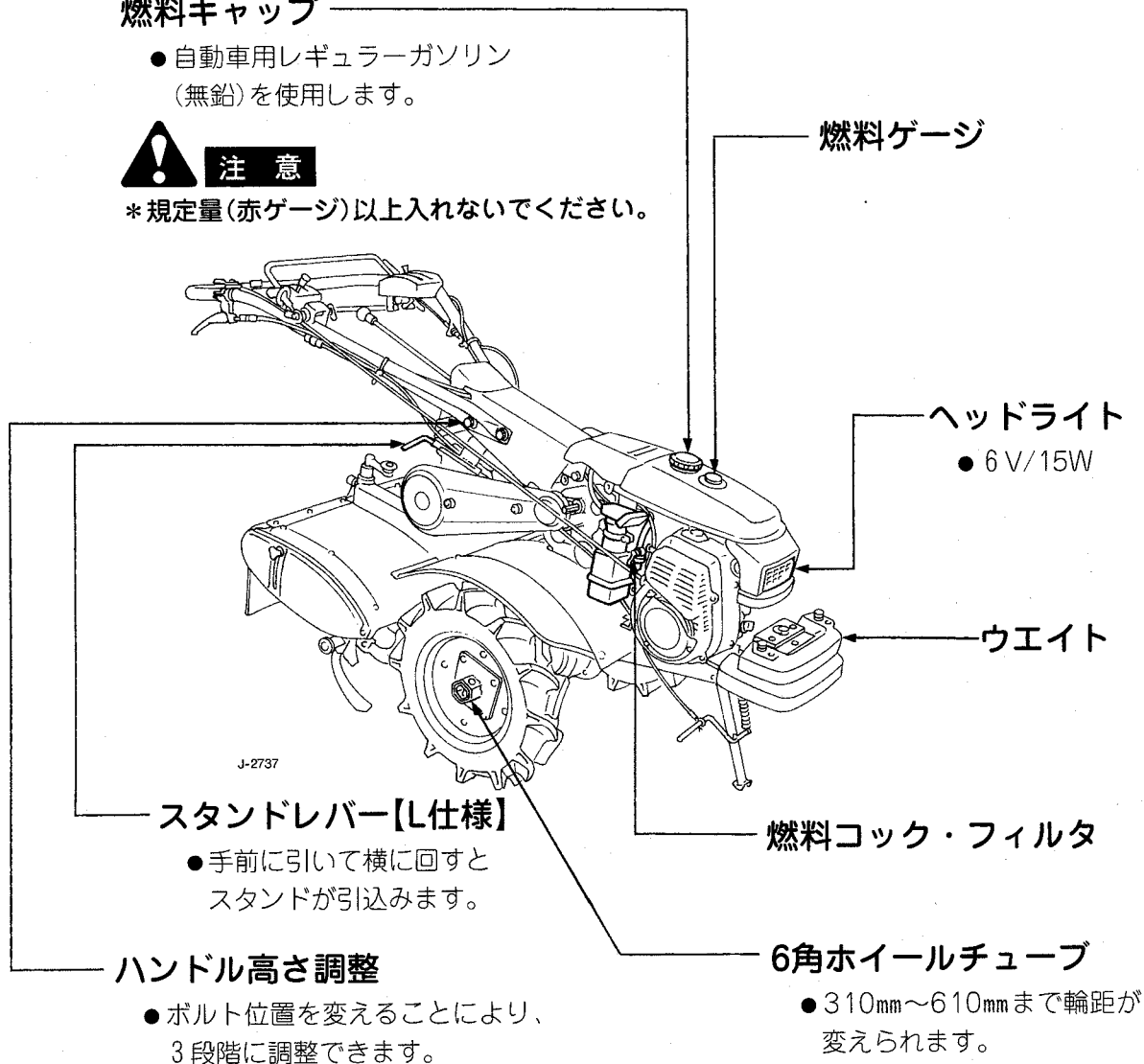
燃料キャップ

- 自動車用レギュラーガソリン(無鉛)を使用します。



注意

*規定量(赤ゲージ)以上入れないでください。



もうおぼえられましたか？ ●ロータリ各部の名称と装置の取扱い

後輪上下ハンドル

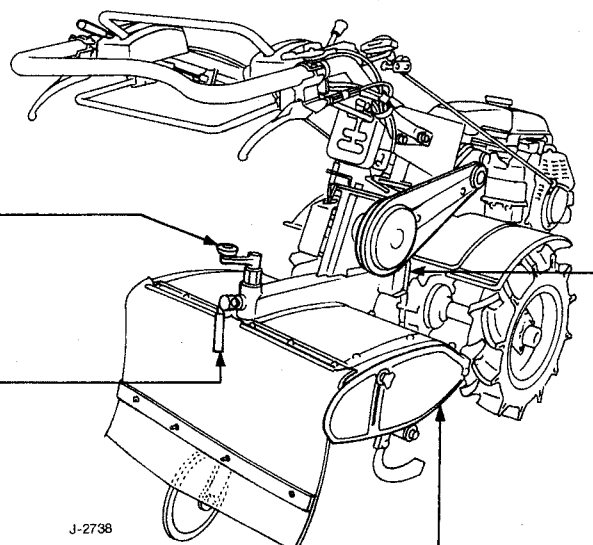
- 右に回す……耕うんが深くなります。
- 左に回す……耕うんが浅くなります。

後輪外管締付けハンドル

- 後輪を多量に調節する場合、ハンドルをゆるめ、後輪外管を上下に調節します。

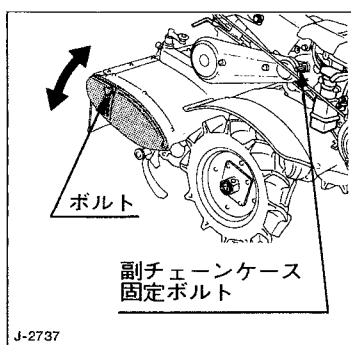
側カバー

- 使用するアタッチメントや作業により、側カバーを上下に調節してください。



J-2738

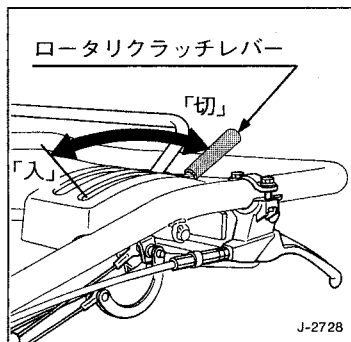
ロータリ固定ボルト



J-2737

ロータリクラッチレバー

- ロータリクラッチレバーが“入”に入っているときはけん制装置の作用により、主変速レバーは“後進”には入りません。
- 主変速レバーが“後進”に入っているときもロータリクラッチレバーは“入”に入りません。



爪軸と耕うん爪の取付け方



注意

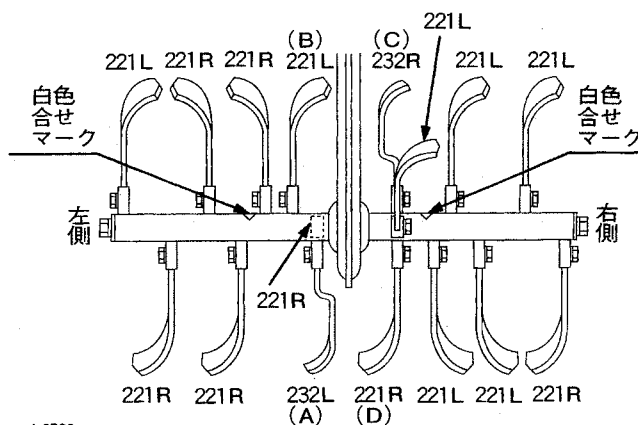
- * 耕うん爪関係の取付けはエンジン停止後行なってください。
- * 取外し・取付けは、平たんな場所で行なってください。

重要

- * 爪軸ブラケットと耕うん爪の番号を合せ、間違いないように取付けてください。
- * 爪軸は、左右の合せマーク(白色)が一致になるように組付けてください。
- * 図中の(A) (B) (C) (D) 及び(左) (右)印は爪ブラケットの刻印位置を示します。

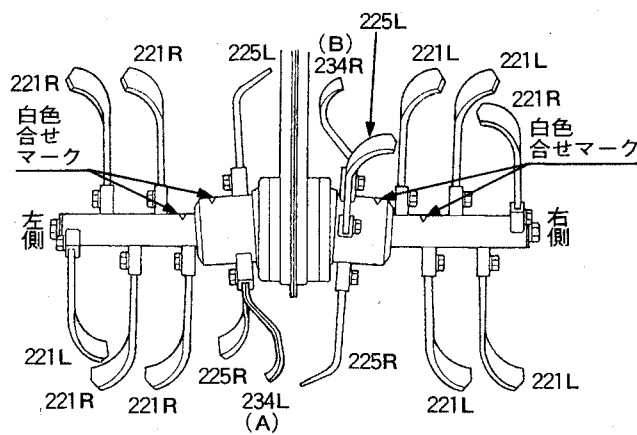
標準ロータリ 耕幅60cmのとき

- ◆平面耕うん・畝立て、畝くずし作業の場合



フルカットロータリ 耕幅60cmのとき

- ◆平面耕うん・畝立て、畝くずし作業の場合



作業前にこれだけチェック ●作業前の点検について



警告

- *給油中はエンジン停止・火気厳禁。くわえ煙草での給油はしないでください。
- *燃料がこぼれたときはきれいにふき取ってください。
- *前スタンドを立て機械を安定させて点検してください。
- *点検時はエンジンを停止してください。
- *燃料が規定量以上に給油されていないか確認してください。

●調子よく作業するために

燃 料

- 自動車用レギュラーガソリン(無鉛)を補給します。
- タンク容量……約3.3 L

重 要

- *水やゴミを混入しないようにしてください。

エンジンオイル

- エンジンを水平にして、レベルゲージで規定量あるか点検します。
- 不足している場合は、クボタ純オイルを補充します。(ガソリンエンジン用)
- オイル量……GH170-TF2 : 0.6 L

エアクリーナ用 オイル

- オイルパンの規定線まであるか点検します。
- 不足している場合は、エンジンオイルを補充します。

ミッションオイル

- スタンドを立てた状態で、検油口まであるか点検します。
- 不足している場合は、クボタ純オイルを補充します。(M80B又はM90)
- オイル量……3.3L

ロータリケース オイル

- スタンドを立てた状態で、検油口まであるか点検します。
- 不足している場合は、クボタ純オイルを補充します。(M80B又はM90)
- オイル量……0.6L

各 ケ ー ブ ル

- ケーブル注油部より、エンジンオイルを注油します。

主クラッチ 操向クラッチ ロータリクラッチ

- クラッチの“入”“切”が確実に行なえるか点検します。
- 不良の場合は調整します。

ロ ー タ リ

- 耕うん爪取付ボルトのゆるみがないか点検します。

そ の 他

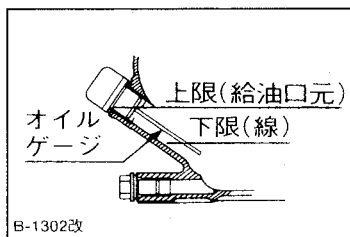
- エンジン、ミッション・ロータリケースなどから油もれがないか点検します。
- 各しゅう動部へエンジンオイルを注油します。
- 各部の損傷及びボルト・ナットのゆるみがないか点検します。

注油 操向クラッチケーブル(左右)——

駐車ブレーキケーブル——

燃料給油口——

エンジンオイル点検・給油口——

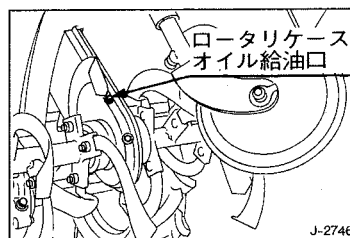


J-2740

ロータリケースオイル給油口——



ロータリケースオイル検油口——

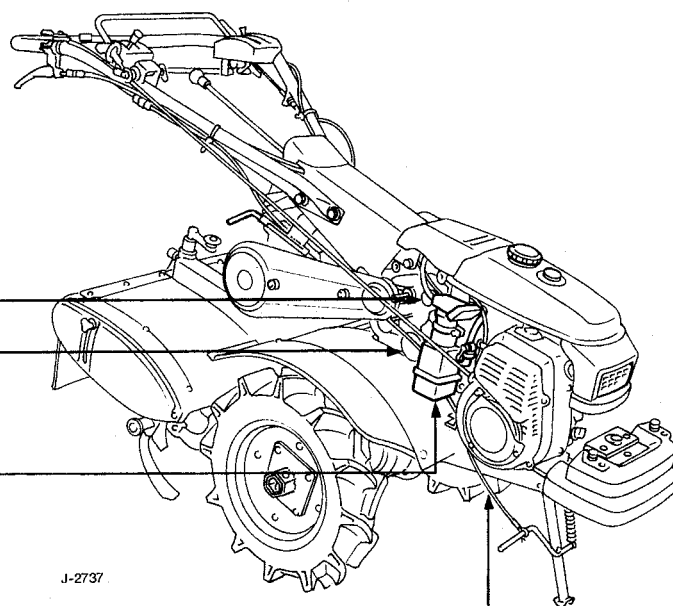
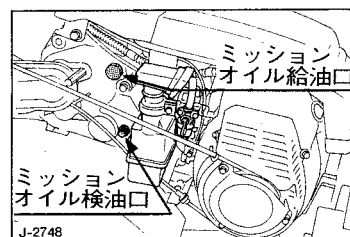


注油

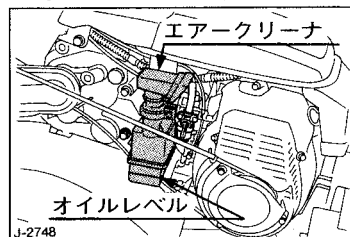
主クラッチケーブル
バックけん制ケーブル
ロータリクラッチケーブル

ミッションオイル給油口——

ミッションオイル検油口——



エアークリーナ——



注油 スタンドケーブル
【L仕様】

タイヤ空気圧

- 空気が抜けていないか、又、損傷がないか点検します。
- 適正空気圧……120kPa(1.2kgf/cm²)



警告

- *タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載している規定圧力を、必ず守ってください。空気の入れ過ぎは、タイヤ破裂のおそれがあり、死傷事故を引き起こす原因になります。
- *タイヤに傷があり、その傷がコード(糸)に達している場合は、使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
- *タイヤ、チューブ、リムなどの交換、修理は、必ず購入先にご相談ください。(特別教育を受けた人が行なうように、法で決められています。)

主クラッチ

- クラッチ“入”でリコイルスタータを引張ると、クラッチレバーが自動的に“切”になることを点検します。
- 補助主クラッチの“切”が確実に行なえるか点検します。
- 不良の場合は調整・注油します。

けん制装置

- ロータリバックけん制が確実に作動するか点検します。
- トレーラ以外の作業では高速(前進6速)けん制が“入”になっているか点検します。

電気配線 ヒューズ

- 被覆が溶けたり被れていないか、また配線がはさまれていないか、クランプがゆるんでいないか点検します。
- ヒューズの代わりに針金などを使用せず、ヒューズは規定ヒューズを使用します。

エンジン周辺部

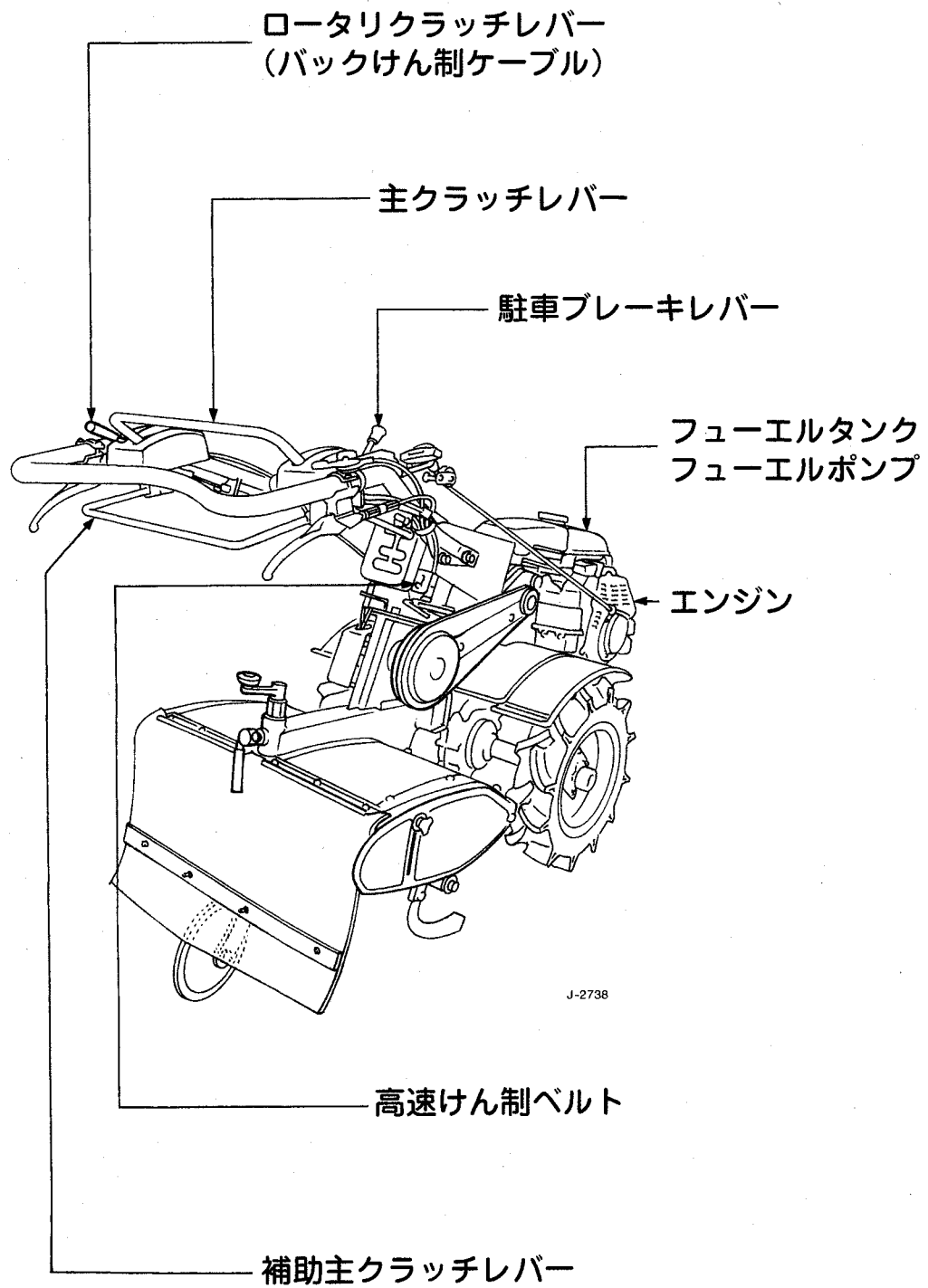
- ファンカバーやマフラカバー内にゴミやワラクズの付着がないか点検します。

燃料漏れ

- タンクやフューエルパイプから燃料漏れがないか点検します。
- タンク容量……約3.3L(赤ゲージ位置)以上入れないようにします。

ブレーキ

- 駐車ブレーキ“入”で確実に停止するか点検します。



このように運転します ●上手な運転のしかた

ならし運転
(最初の10時間)
(程度使用まで)

エンジンの 始動のしかた

注意

- * エンジンを始動するときは、主クラッチレバーを必ず、“切”にしてください。
- * リコイルスタータの引張る方向に人がいないか、突起物・障害物がないか確かめてから始動してください。
- * マフラの排気方向に、燃えやすいものがないか確認してください。
- * エンジン運転中、マフラに手を触れないでください。

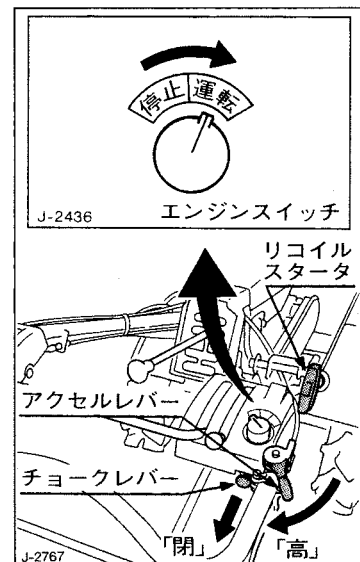
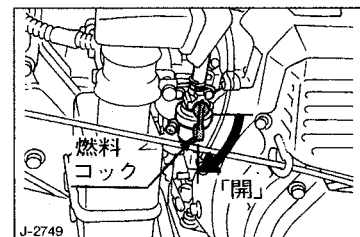
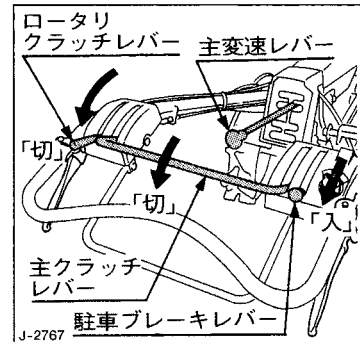
この期間中は各部になじみをつけるため、エンジンを高速回転させたり、過酷な使用は避け、無理をさせないようにしましょう。

リコイル始動のとき

- ① 駐車ブレーキレバーを“入”にします。
- ② 主クラッチレバーを“切”にします。
- ③ 主変速レバーは“中立”，ロータリクラッチレバーは“切”にします。
- ④ 燃料コックを“開”にします。
- ⑤ アクセルレバーを“高”にします。
- ⑥ チョークレバーを引き“閉”にします。
- ⑦ エンジンスイッチを“運転”の位置にします。
- ⑧ リコイルスタータハンドルを握って、勢いよく引張ります。
エンジンが始動したら、リコイルスタータハンドルを静かに元に戻してください。
- ⑨ エンジンの運転調子を見ながら、チョークレバーを徐々に戻します。(開く)
- ⑩ 2～3分暖機運転を行ってから、作業を始めてください。

補足

- * 主クラッチレバー“入”の状態ではリコイルスタータハンドルを引くと、主クラッチレバーが“切”に戻ります。



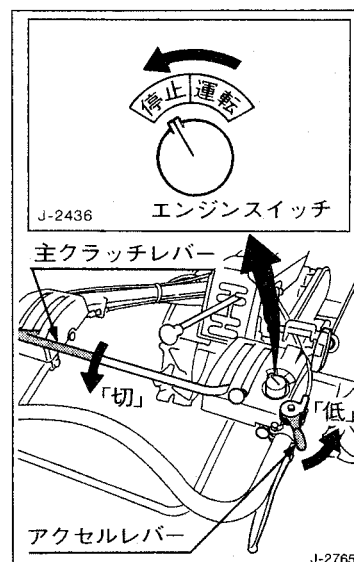
停止のしかた



注意

*エンジン停止直後は、マフラーが熱くなっていますから、手を触れないようにしてください。

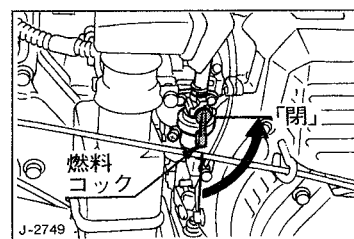
- ①主クラッチレバーを“切”にします。
- ②アクセルレバーを“低”にします。
- ③エンジンスイッチを“停止”にすると、エンジンが停止します。



- ④燃料コックを“閉”にします。

重要

*コックを開いた状態で保管したり、前に倒したり、また車両で運搬すると、エンジン始動が困難となることがあります。



発進のしかた



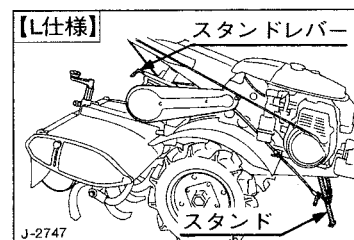
警告

*特に後進するときは、ハンドルが持ち上がるので、主クラッチの接続はゆっくり行なってください。
*確実にケンセイが作動するか確認してください。
*ロータ装着時後進禁止。

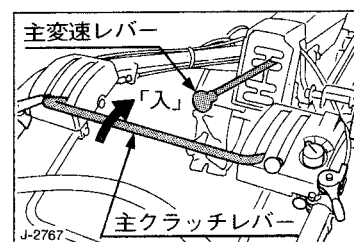
- ①スタンドを上げます。

【L仕様】

スタンドレバーを引き、スタンドを上げます。



- ②主変速レバーを希望の変速位置に入れます。
- ③主クラッチレバーを“入”にすると発進します。
主クラッチレバーはゆっくり操作してください。



ロータリの 着脱のしかた



注 意

* 取外し・取付けは、平たんな場所で行なってください。

* ロータリを取外したあとは、本機接合部(PTO部)にキャップを取付けておいてください。

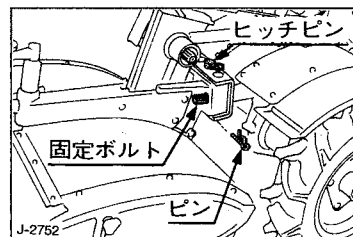
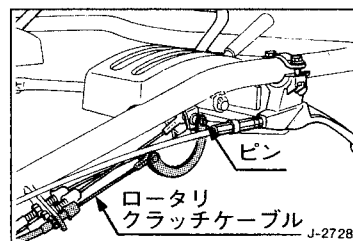
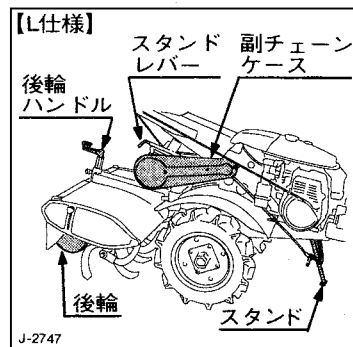
ロータリの外し方

- ① スタンドを立て機体を安定させます。
- ② 耕うん爪を地面に接地させたとき、後輪が5～8 cm 浮くように後輪ハンドルで調整します。
- ③ ボルトを外し、副チェーンケースを取外します。
- ④ ロータリクラッチケーブルをハンドル側で取外します。

重 要

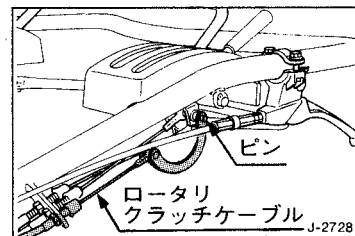
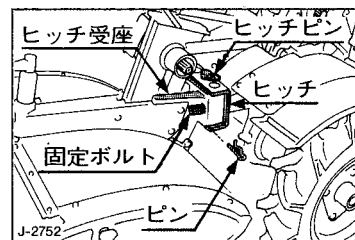
* 外したピンはケーブル側に取付けておいてください。

- ⑤ ロータリ固定ボルトをゆるめ(5～6回)ヒッチピンを抜きます。
- ⑥ ハンドルを下げ、ロータリを後方に引いてください。
(本機を前方に押し出してもよい。)



■ロータリ取付け方

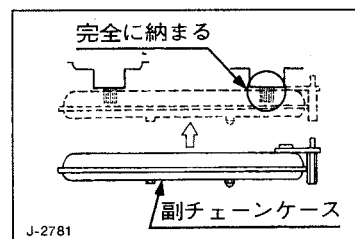
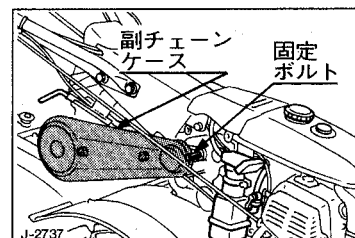
- ①ロータリのヒッチ受座をなるべく水平にします。
- ②ロータリのヒッチ受座と本機のヒッチを合せます。
- ③ヒッチとヒッチ受座の穴を合せヒッチピンを差込みβピンを入れます。
- ④ロータリクラッチケーブルを取付けます。



- ⑤副チェーンケースを取付けます。

重要

- * スプラインが合いにくいときはロータリクラッチレバーを“入”に入れ、爪軸を手で回して合せてください。
- * 副チェーンケースが“本機”・“ロータリ”におさまりきらないときは、ロータリケースの締付けボルトをゆるめてインローを合せてください。
- * ロータリクラッチレバーを“切”に戻してください。



- ⑥ロータリ固定ボルトを締付けてください。

重要

- * 取付後はロータリクラッチが“切”・“入”に確実に入るか確認してください。

こんなときどうする？ ●簡単な手入れと処置



警告

廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。

廃棄物を処理するときは

- * 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
- * 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
- * 廃油、燃料、冷却水(不凍液)、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリー、ゴム類、その他の有害物を廃棄、又は焼却するときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。



注意

- * 給廃油・点検・調節・清掃中はエンジンを停止して行なってください。
- * 前スタンドを立て機械を安定させて行なってください。

エンジンオイルの交換



注意

- * エンジン停止後は、しばらくの間エンジンが熱いので、手を触れないでください。

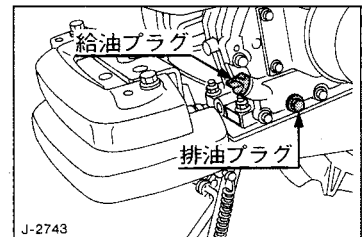
エアクリーナエレメントの清掃とオイル交換

■排油のしかた

前スタンドを立てて、給油プラグを外し、そのあと排油プラグを外し、排出してください。

■給油のしかた

エンジンを水平になる状態にし、給油口の口元まで入れてください。



交 換		オイル量	オイルの種類
第1回目	以 後		
25 時 間 使 用 後	100 時間 使用ごと	0.6 L	ガソリンエンジン オイル クボタ純オイル又は SC級以上のオイル

夏	20℃以上	SAE30
春・秋	5～20℃	SAE20
冬	5℃以下	SAE10W又は 10W-30

(1) エレメントを外し、白灯油で洗い、エレメントの白灯油をよく振切って取付けてください。

(2) オイルパンはよく洗浄し、新しいオイルを規定量入れてください。

(エンジンオイルSC級以上)

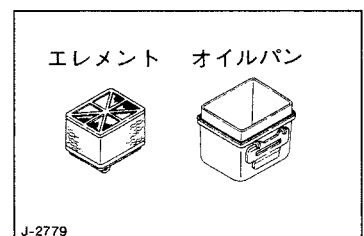
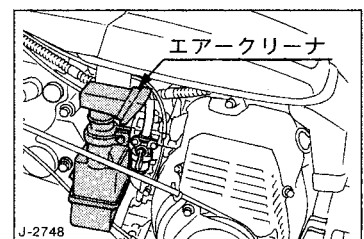
- 規定量…OIL LEVEL と記載されているところ

通 常	50時間使用ごと
-----	----------

重 要

- * 汚れたまま使用しますと、エンジンの出力低下や故障の原因になります。

エレメント (オイル)	清掃 交換	通 常	50時間ごと
		ホコリの多い場合	毎 日
		汚れがひどいとき	



フィルタポットと フィルタエレメント の清掃と交換

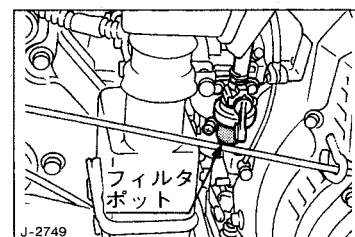


注 意

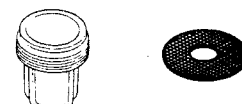
* 取付け後ガソリン漏れがないか確認してください。

燃料コックレバーを“閉”にし、フィルタポットとフィルタエレメントを取外して、フィルタポットとフィルタエレメントを清掃してください。

清 掃	50時間使用ごと
交 換	汚れがひどいとき



フィルタポット フィルタ
エレメント



O-1279

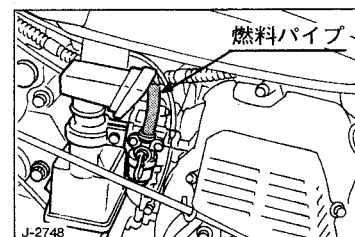
燃料パイプの交換



警 告

* 燃料パイプは自然劣化したり傷があると、ガソリン漏れして火災の原因となります。ヒビや割れが発生したものは新しい燃料パイプと交換してください。

交 換 2 年間ごと

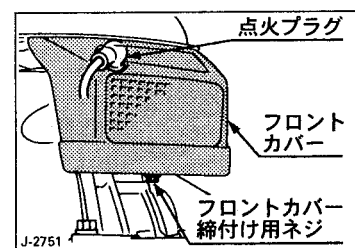


点火プラグの 調節・清掃

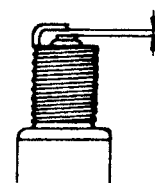
- ① フロントカバー締付け用ネジをゆるめてカバーを外します。
- ② ボックススパナでプラグを外して電極を清掃します。(ボックススパナ21)
- ③ 電極のすき間が0.6～0.7mmになるように調節してください。
- ④ 点検調節は6ヵ月に1回行なってください。

重 要

- * 締付け時は、ネジ山をつぶさないよう、はじめ手で締込んでから、ボックススパナで締付けてください。
- * 調節・清掃してもエンジンが不調のときは、新しいプラグと交換してください。
- * 点火プラグは必ずNGK製BP6HSをご使用ください。



0.6～0.7mm



ミッションオイル の交換



注 意

* 排油は適切な処理をしてください。

主クラッチケーブルの 調節



注 意

- * ベルト調節を行なう場合は、必ずエンジンを停止して行なってください。
- * 調節が終わったら必ずベルトカバーを取付けてください。
- * エンジンを始動する前に、主変速レバーを“中立”，ロータリクラッチレバーを“切”にし、スタンドが出ていることを確認してください。
- * エンジンが回っているときは、危険ですので付近に近よらないでください。

新しいベルトに 交換する場合

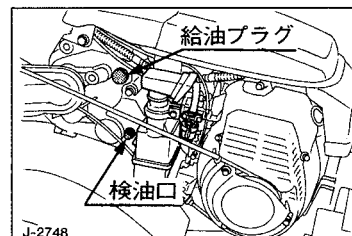
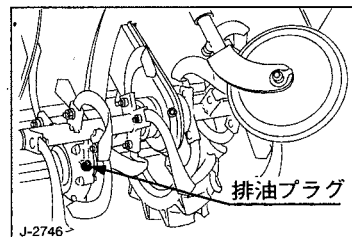
■排油のしかた

排油プラグを取外し、排油してください。

■給油のしかた

前スタンドを立てた状態で給油プラグを外し、検油口から油があふれるまで給油してください。

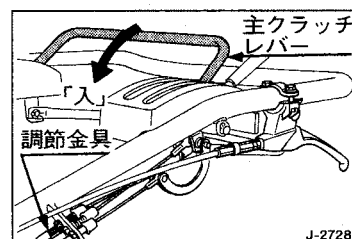
交 換		オイル量	オイルの種類
第1回目	以 後		
50 時 間 使 用 後	100時間毎	約3.3L	クボタ純オイル M90又はM80B



■クラッチケーブルによる調節

主クラッチレバーを入れた状態でベルトの中央部を指で押えて10～15mmたわむ程度にケーブル調節金具でテンションプーリを調節してください。

なお、使用初期はベルトが伸びやすいため、10時間使用後ケーブルを再調節してください。

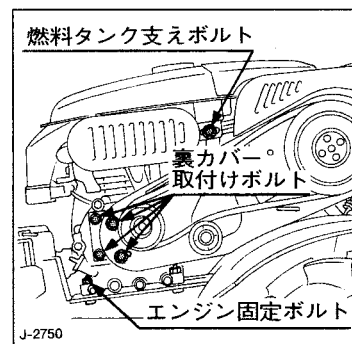
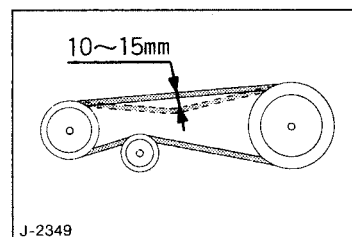


■エンジン前後による調節

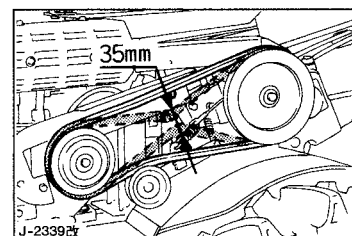
ベルトが伸びたり、又は新しいベルトに取換えたとき、主クラッチケーブルで主クラッチの調節ができない場合は、エンジンを前後に移動調整します。エンジン固定ボルト4本と、燃料タンク支えボルト、裏カバー取付けボルトをゆるめて調節し、調節後は確実にボルトを締付けてください。

重 要

* 主クラッチケーブルを調節した場合、エンジンを始動してクラッチの“入”・“切”が確実に作動するか確認してください。

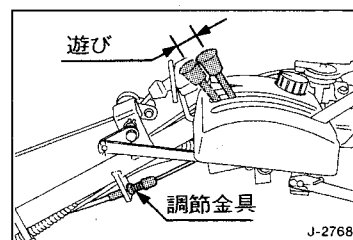


新しいベルトに交換する場合は、ベルト中央部を指ではさんですき間を約35mmぐらいにして、エンジン固定ボルトを締付けてください。



駐車ブレーキの調節

ブレーキがききにくい場合は、調節金具でブレーキが確実にきくように調節します。調節後は、調節金具のロックナットを確実に締付けてください。



タイヤ空気圧

空気圧が高すぎても低すぎても、タイヤの寿命を縮めますから、定期的に空気圧を調べ、適正になるように調節してください。

適正空気圧	120kPa(1.2kgf/cm ²)
-------	---------------------------------

空気を入れるには、エアーコンプレッサ、又は自動車などのタイヤに空気を入れる高圧手押しポンプを用いてください。



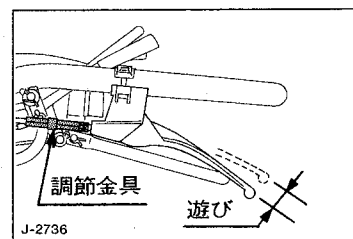
警告

- *タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載している規定圧力を、必ず守ってください。空気の入れ過ぎは、タイヤ破裂のおそれがあり、死傷事故を引き起こす原因になります。
- *タイヤに傷があり、その傷がコード(糸)に達している場合は、使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
- *タイヤ、チューブ、リムなどの交換、修理は、必ず購入先にご相談ください。
(特別教育を受けた人が行なうように、法で決められています。)

操向クラッチの調節

操向クラッチレバーを握っても操向クラッチが切れにくい場合、また操向クラッチレバーを離しても入りにくい場合は、調節金具で調節します。

操向クラッチ	調節金具
切れにくい場合	長くする
入りにくい場合	短くする

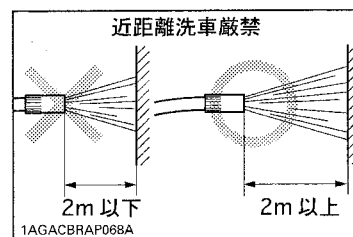
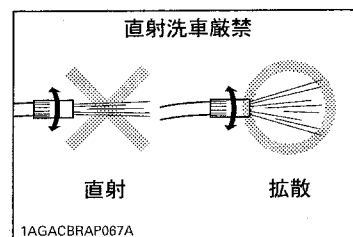


注意

- *調節後は、ロックナットを確実に締付けてください。

洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤ると人を怪我させたり、機械を破損・損傷・故障させることがありますので、高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って、正しく使用してください。



注意

- *機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし、2m以上離して洗車してください。もし、直射にしたり、不適切に近距離から洗車すると、
 1. 電気配線部被覆の損傷・断線により、火災を引き起こすおそれがあります。
 2. 油圧ホースの破損により、高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。
 3. 機械の破損・損傷・故障の原因になります。

例)(1)シール・ラベルの剥がれ

(2)電子部品、エンジン・トランスミッション室内等への浸入による故障

(3)タイヤ、オイルシール等のゴム類、樹脂類、ガラス等の破損

(4)塗装、メッキ面の皮膜剥がれ

電気配線及び ヒューズ



注 意

*ワイヤハーネスが損傷している、ショートを起こすので必ず点検してください。

*配線及びマフラやエンジン周辺部にワラクス、ゴミや燃料の付着などがあると、火災の原因となるので毎日作業前に点検してください。

ロータリケースの オイル交換

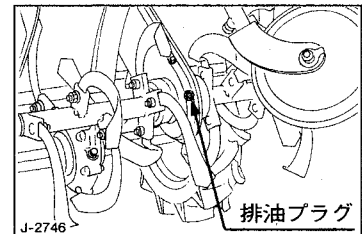
副チェーンケースの グリース補充

ワイヤハーネスの被覆は各部の角に接触して損傷したり、自然劣化することがありますので、下記の項目を点検してください。

- (1)ワイヤハーネスの損傷及びクランプのゆるみがないこと。
- (2)ターミナル、ブロック(ソケット)の接続部のゆるみがないこと。
- (3)各スイッチが確実に作動すること。

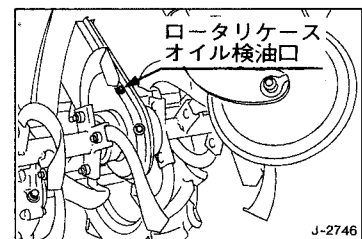
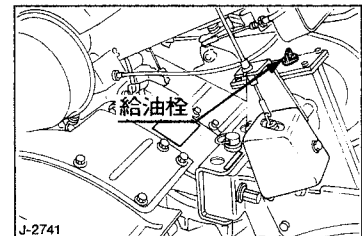
■排油のしかた

排油プラグを取外し、排油してください。



■給油のしかた

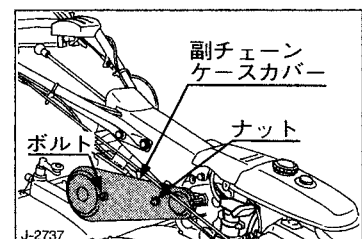
前スタンドを立てた状態で給油栓を外し、検油口から油があふれるまで給油してください。



交 換		オイル量	オイルの種類
第1回目	以 後		
50 時 間 使 用 後	100時間毎	0.6L	クボタ純オイル M90又はM80B

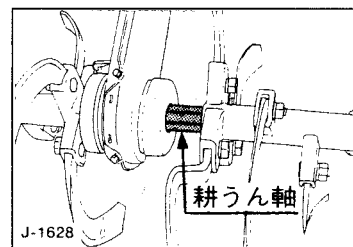
副チェーンケースカバーを外し、良質グリースを適量補充してください。

50時間ごと	クボタチェーングリース 又は良質グリースを適量
--------	----------------------------



耕うん軸への グリース塗布

耕うん軸にグリース又はオイルを塗布しておく
と、爪軸の着脱が楽になります。



バックけん制 装置の調節



警告

*バックけん制装置の解除
は行なわないこと。



注意

*調節後は、調節金具の
ロックナットを確実に締
付けてください。

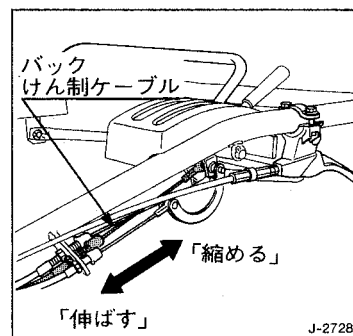
*調節が終わったら、主変速
レバーを“中立”，ロータ
リクラッチレバーを“切”
に戻してください。

ロータリクラッチレバーと主変速(後進)に安全
装置をもうけてあります。

*ロータリクラッチレバーが“入”のときは、主
変速レバーは“後進”に入りません。

*主変速レバーが“後進”に入っているときは、
ロータリクラッチレバーは“入”に入りませ
ん。

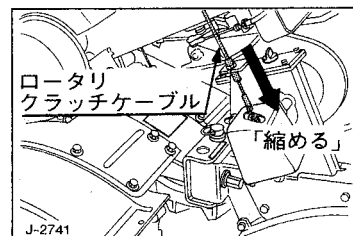
上記の作用が不十分な場合は、バックけん制
ケーブルの長さを調節してください。



現 象	処 置
(1)主変速レバーが“後進”に入っているのにロータリ クラッチレバーが“入”に入る場合。 (2)ロータリクラッチレバーが“入”に入っているのに 主変速レバーが“後進”に入る場合。	バックけん制ケーブルの 調節金具を伸ばす方向に 調節してください。
(1)主変速レバーが“後進”に入っていないのにけん制 が働いてロータリクラッチが入らない場合。 (2)ロータリクラッチレバーが“切”なのにけん制が働 いて主変速レバーが“後進”に入らない場合。	バックけん制ケーブルの 調節金具を縮める方向に 調節してください。

ロータリクラッチ ケーブルの調節 (ロータリ付仕様)

- ①エンジン始動後、主変速レバーの“中立”を確
認し、主クラッチレバーを“入”にします。
- ②ロータリクラッチレバーにより、ロータリ爪
軸の回転・停止が確実にこなえるか点検しま
す。
- ③もし、ロータリクラッチレバーが“切”の時に
爪軸が回転するようなら、ケーブル調節金具
を縮める方向に調節します。

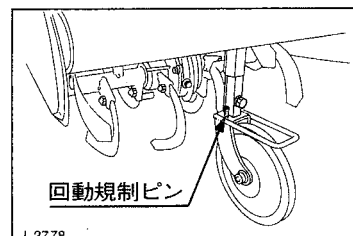


後輪の取付け

後輪のボルトが手前(後方)になるように、後輪
内管を後輪外管に組付けます。

重 要

*組付け位置を間違えると、後輪が耕うん爪に
当たり、破損の原因となります。



長い間使わないときは？ ●長期格納時の手入れ

使用後の手入れ

保 管



注 意

*カバーをかけた後、納屋に格納するときは火災の危険があるため、エンジンが冷えてからにしてください。

燃料の抜取り



注 意

燃料がこぼれたときは、きれいにふき取ってください。

エンジン始動不良を防ぐために

- (1)使用後は、必ずその日のうちに清掃を行ない、各部に付いている土やゴミを落とし、各しゅう動部はさびないように油を塗布してください。
- (2)特にエンジンのファンカバー内にゴミが詰まると、焼付きなどの原因になりますので、よく点検・清掃を行なってください。
- (3)水洗いのとき、エアークリーナ吸込口から水が入らないようにカバーをしてください。

使用後の清掃と同じく、

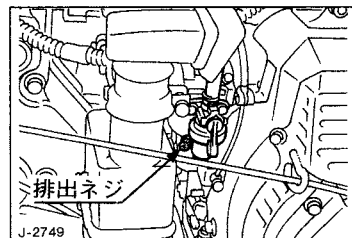
- ①各部に付着している泥やゴミを水で洗い落とし、
- ②各部の水分を乾いた布などで十分にぬぐい取り、
- ③摩擦しゅう動部、及び塗料のはがれたところなどには、さびないように油脂を塗布してください。

- (1)主クラッチレバーは“切”の位置にして、保管します。
- (2)エンジンオイルを交換します。
- (3)エアークリーナエレメントは、きれいに清掃しておきます。ゴミがこびりついて次回使用の際、清掃が困難になります。
- (4)エンジンのシリンダ内に湿気が入って、始動が困難になるのを防止するため、リコイルスタータハンドルを引張って、圧縮位置で止めておきます。
- (5)カバーをかけ、湿気やホコリの少ない場所に置いてください。
カバーはエンジンが冷えてからかけてください。

重 要

* ほ場に保管していると、地面からの湿気が多いので錆びやすくなります。

1カ月以上使用しないとき、燃料タンク内のガソリンはポンプなどを使用して抜取り、キャブレター内は排出ネジをゆるめて、フィルタポットは外して全部抜取ってください。



重 要

* 燃料をそのままにしておくと、燃料タンクやキャブレター内のガソリンが劣化して、次の始動が困難になります。

エンジン停止後、必ず燃料コックレバーを閉めてください。

重 要

* 燃料コックレバーを開いたままの状態、保管したり、前に倒したり、また車両で運搬したりすると、エンジン始動が困難となる場合があります。また、クランクケース内へガソリンが流入することもあります。

テラーを運搬するとき

自動車(トラック) への積み込み、運搬



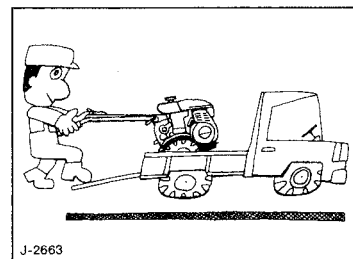
注意

- * あゆみ板は、丈夫なすべり止めのあるものを使用してください。
- * 途中で、操向クラッチや主クラッチは絶対に切らないでください。
- * 登りは“前進”，下りは“後進”で行なってください。
- * トラックは、荷台に天井が無い車を使用してください。
- * ロータを装着して、あゆみ板の上り、下りは危険です。絶対にしないでください。

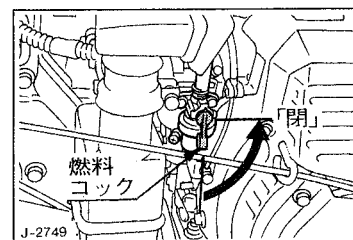
- (1) トラックを平たんな場所に止め、駐車ブレーキを掛けます。
- (2) あゆみ板を荷台に確実に固定します。
- (3) 上り、下りは最低速で走行します。
- (4) 主変速レバーは、低速に入れ、また主クラッチレバーも“入”にしておきます。
- (5) 機体は荷台にロープで確実に固定します。
- (6) 機体にロープを掛けるときは、後ヒッチ・車輪・前スタンド・ハンドル部2カ所を固定してください。
- (7) 燃料コックレバーは“閉”にします。
- (8) 雨天時には、エアークリーナの吸込口にカバーをかぶせてください。
- (9) ロータを装着している時は、タイヤに交換して行なってください。

重要

- * ロープを掛けるとき、変速レバーや樹脂カバー、小物部品にロープが触れないように気を付けてください。
破損したり機能が損なわれる恐れがあります。
- * エアークリーナの吸込口にカバーをかぶせないで運搬すると、雨水や砂ホコリが入りエアークリーナ性能が低下します。
- * 燃料コックレバーを“閉”にしないで運搬したとき、次の現象が見られます。
 - 機体の振動で気化器針弁の振れ
 - エンジンクランクケース内への燃料の流入
 - エアークリーナへの燃料の流入
 などからエンジン始動が困難な場合がありますので、必ず“閉”にしてください。



J-2663



J-2749

付 記

■主要諸元

商 品 名		TG600	
農 機 型 式 名		クボタTG600	
機 体 寸 法	全 長 mm	1755	
	全 幅(ハンドル幅) mm	725	
	全 高(標 準 位 置) mm	1150	
	輪 距(タイヤ中心) mm	310~610	
質 量 (装 備) kg		単 体 119 ロータリ付 173	
エ ン ジ ン	名 称	GH170-1-E-TF2	
	種 類	空冷4サイクルガソリンエンジン(OHV)	
	総 排 気 量 cm ³ (cc)	169	
	出力(定格)/回転速度 kW(PS)/rpm	3.2(4.3)/1800	
	出力(最大)/回転速度 kW(PS)/rpm	4.6(6.2)/1800	
	使 用 燃 料	自動車用レギュラーガソリン(無鉛)	
	燃 料 タ ン ク 容 量 L	3.3	
始 動 方 式		リコイルスタータ	
点 灯 装 置		6V/15W	
主 ク ラ ッ チ 方 式		ベルトテンション	
補 助 停 止 ク ラ ッ チ		あり	
操 向 ク ラ ッ チ 方 式		爪クラッチ	
制 動 方 式		内部拡張式(駐車ブレーキ)	
タ イ ヤ	記 号 K	4.00-12 セットボルト付	
	記 号 T	4.00-10	
	記 号 S	4.00-9	
	記 号 N	4.00-7	
変 速 段 数	主 変 速	前 進	6段(前進6速けん制装置付)
		後 進	2段
車 軸 形 状 径 mm		34(六角対辺31)	
P T O 回 転 数 min ⁻¹ (rpm)		847	
ロータリ	センタドライブ		
	駆 動 方 式	標準	フルカット式
	耕 幅 mm	600	600

■走行速度一覧表 (タイヤ4.00-10装着の時)

	速 度	車軸回転数min ⁻¹ (rpm)	速度 m/min(km/h)	作 業
前 進	1 速	8.1	11.8 (0.71)	ロータリ耕うん作業 畝立て作業
	2 速	12.8	18.5 (1.11)	
	3 速	23.0	33.4 (2.00)	代かき・歩行移動
	4 速	47.1	68.3 (4.10)	
	5 速	74.0	107.4 (6.44)	トレーラ
	6 速	133.5	193.7 (11.62)	
後 進	1 速	5.5	8.0 (0.48)	ほ場後進
	2 速	32.0	46.4 (2.78)	トレーラ後進

■爪軸回転速度(ロータリ)

爪軸回転数 min ⁻¹ (rpm)
207

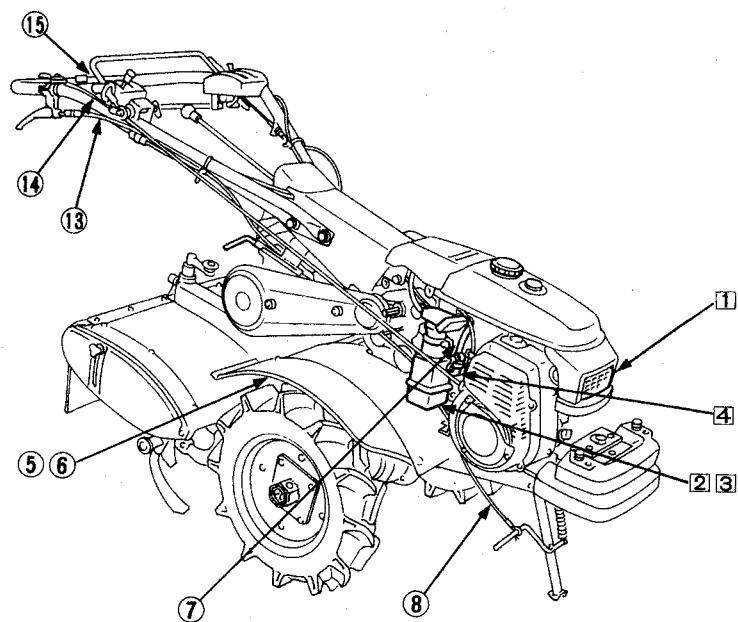
■標準付属品

品 名	数 量
取扱説明書	1
保証書	1
PTO軸キャップ	1 (ロータリなし仕様は本機に装着)
プラグボックス	1

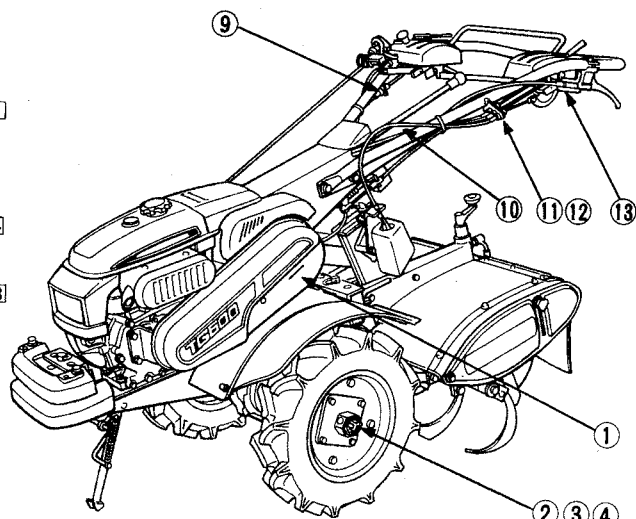
■オプション部品

品 番	品 名	仕 様	適 用 機 種
62088-8310-0	プーリボスキャンピ	動力取出用のボス。(PTO軸に取付)	全機種
KK216-8340-0	ウエイト, アッシ (7)	7kg+積重ね用ボルト付き (3段積みは避けてください)	既ウエイト付仕様
KK226-8440-0	ウエイト, アッシ (12)	12kg+積重ね用ボルト付き (3段積みは避けてください)	
62901-6603-0	ユニバーサルヒッチアッシ	板金タイプ (ヒッチピン付)	全機種
62671-5260-5	ユニバーサルヒッチアッシ	板金タイプ (ヒッチピンなし)	(U仕様除く)
KK211-8350-0	コウグアッシ(TG600)	スパナ3種, ドライバー, 工具袋	全機種
KK221-8380-0	マッドガードアッシ	フェンダ用ゴムタレ	全機種(M・N仕様除く)
KK214-8380-0	フェンダアッシ	フェンダ+フェンダ用ゴムタレ	N仕様
KK214-8390-0	ホイールチューブアッシ	◇ L=288mm	
KK212-8390-0	ホイールチューブアッシ	◇ L=288mm (セットボルト付)	全機種(K仕様除く)
KK211-8390-0	ホイールチューブアッシ	◇ L=228mm	全機種(K仕様除く)
KK221-8390-0	ホイールチューブアッシ	◇ L=243mm	全機種
KK221-8360-0	ホイールチューブアッシ(φ40)	φ39.9×L243mm	
92014-0041-0	4.00-7 タイヤアッシ	外形φ400mm	全機種
92014-2500-0	4.00-9 タイヤアッシ	外形φ460mm	
92014-3500-0	4.00-10 タイヤアッシ	外形φ485mm	
92014-4500-0	4.00-12 タイヤアッシ	外形φ525mm	
KK211-8370-0	テモトスタンドセット		全機種(L仕様除く)
KK216-8001-0	TG600コンパクトロータリ	耕幅600mm	ロータリなし仕様
KK219-8001-0	TG600フルカットロータリ	耕幅600mm	
92181-9821-6	Aセットツメ-2	221号 左右各7本, 232号 左右各1本	コンパクトロータリ
92181-9822-6	Bセットツメ-2	221号 左右各7本, 234号 左右各1本, 225号 左右各2本	フルカットロータリ
63733-9620-0	ツメトリツケブヒン 1	ボルト, ナット, バサザガネ 各1個	コンパクトロータリ フルカットロータリ
92201-0980-0	コウリンサポートアッシ	後輪を360°回転可能にする	コンパクトロータリ フルカットロータリ

■主な消耗部品一覧表

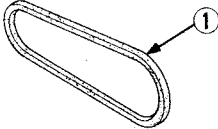
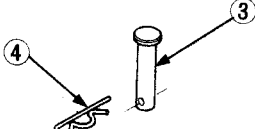
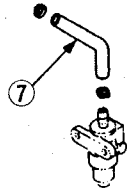
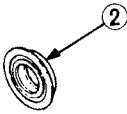
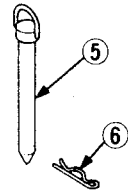


J-2737



J-2740

◆本機関係

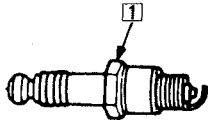
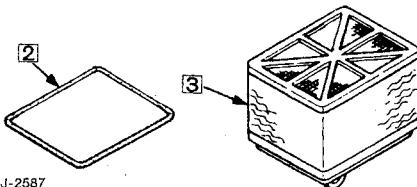
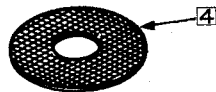
Aベルト40  X-0071	ホイールチューブピン  O-0830	フューエル チューブ  J-2587
オイルシール(車軸)  J-2587	ヒッチピン  J-2587	

図番	品名	品番	数量	備考
①	特A 40Vベルト	62421-6231-0	2	
②	オイルシール (車軸)	09500-00003	2	
③	ホイルチューブピン (長さ66mm)	62131-1732-0	4	
④	バネピン	62131-1729-0	4	
⑤	ヒッチピン	62151-5215-4	1	
⑥	スナップピン	05515-55000	1	
⑦	フューエルチューブ	13585-4212-0	1	
⑧	ケーブル (スタンド)	KK221-4312-0	1	L仕様
⑨	ケーブル (ブレーキ)	KK211-4301-0	1	
⑩	ケーブル (ロータリクラッチ)	KK216-4413-0	1	R, F仕様
⑪	ケーブル (主クラッチ)	KK211-4224-0	1	
⑫	ケーブル (バックケンセイ)	KK216-4412-0	1	R, F仕様
⑬	ケーブル (サイドクラッチ)	KK211-4217-0	2	
⑭	ケーブル (スロットル)	KK211-4212-0	1	
⑮	ケーブル (チョーク)	KK211-4321-0	1	

◆ロータリ関係

	品名	品番	数量	備考
標準ロータリ	耕うん爪221左	92181-1201-0	7	フルカットロータリ 含む(個数各5)
	耕うん爪221右	92181-1202-0	7	
	へんけい爪222左	92181-1203-0	1	
	へんけい爪222右	92181-1204-0	1	
	耕うん爪232左	92181-1213-0	1	
	耕うん爪232右	92181-1214-0	1	
	特殊オイルシールアッシ	62252-3244-2	2	
フルカットロータリ	耕うん爪224左	92181-1205-0	1	
	耕うん爪224右	92181-1206-0	1	
	耕うん爪225左	92181-1207-0	2	
	耕うん爪225右	92181-1208-0	2	
	耕うん爪234左	92181-1215-0	1	
	耕うん爪234右	92181-1216-0	1	
	オイルシール (30467)	KK229-3245-0	2	
	オイルシール (軸付)	60741-1275-0	2	
	オイルシール (フレキシブル)	KK229-3257-0	2	

◆エンジン関係

スパークプラグ  O-0834	エアクリーナパッキン エアクリーナエレメントアッシ  J-2587	フィルタエレメントアッシ  O-1279
--	---	---

図番	品名	品番	数量	備考
①	スパークプラグ	13901-6771-2	1	
②	エアクリーナパッキン	12643-1130-0	1	
③	エアクリーナエレメント	EG424-1108-0	1	
④	フィルタエレメント	E3131-4316-0	1	

トラブルと処置

■エンジンが始動しないとき

原因	処置
*始動の手順が間違っている	➡ 正しい順序で始動する。(10ページ参照)
*タンクにガソリンを入れたまま1ヵ月以上保管しガソリンが腐った。	➡ タンク・キャブレター内の腐ったガソリンを排出し、新しいガソリンを入れる。
*フィルタポットに水やゴミが混入している。	➡ ポットを外してフィルタエレメントを清掃する。または新しい物と交換する。キャブレター内のガソリンも排出する。
*チョークを引いた(閉じた)状態でリコイルを何回も引過ぎガソリンを吸いすぎた。	➡ チョークを戻し(開き)リコイルを引くか、点火プラグを外して乾燥させる。
*エンジン停止後、燃料コックレバーを閉じないで本機を前に倒したり、車両で運搬したためキャブレター内のガソリンがオーバフローした。	➡ クランクケース内にガソリンが混入していたら新しいエンジンオイルと交換する。
*エアークリーナエレメントが目詰まりしている。	➡ エレメントを外して清掃する。または新しい物と交換する。
*点火プラグの火花が弱い、飛ばない。	➡ 点火プラグを外して付着したカーボンを清掃する。または、新しい物と交換する。

■エンジンの回転が上がらない、不安定、出力が不足するとき

原因	処置
*エンジンが暖まってもチョークを引いた(閉じる)まま運転している。	➡ チョークを戻す(開く)。
*フィルタポットに水やゴミが混入している。	➡ ポットを外して清掃する。キャブレター内のガソリンも排出する。
*エアークリーナエレメントが汚れている。	➡ エレメントを外して清掃する。
*アクセルケーブルの引張りが不足している。	➡ ケーブルのセット位置を調節する。

■エンジンが振れる、異音が発生する

原因	処置
*エンジン取付けボルトがゆるんでいる。	➡ 取付けボルトを締付ける。

上記の処置をしてもトラブルが直らないときは、お買いあげいただいた購入先にご相談ください。

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点はまず、購入先へ ご相談ください

おぼえのため、記入されると便利です

購入先名	担当	電話 () -
ご購入日	型式名	区分
車台番号(製造番号)	エンジン型式	エンジン番号

万一ご購入先でご不明の点がございましたら、下記にお問合わせください。

クボタ機械サービス株式会社

北海道営業技術推進部：電(011)662-2121	〒063-0061 札幌市西区西町北16丁目1番1号
秋田営業技術推進部：電(018)845-1644	〒011-0901 秋田市寺内字大小路207-54
仙台営業技術推進部：電(022)384-5162	〒981-1221 名取市田高字原182番地の1
東京営業技術推進部：電(048)862-1588	〒338-0832 さいたま市桜区西堀5丁目2番36号
新潟営業技術推進部：電(025)285-1263	〒950-0992 新潟市上所上1丁目14番15号
金沢営業技術推進部：電(076)275-1121	〒924-0038 白山市下柏野町956-1
名古屋営業技術推進部：電(0586)24-5111	〒491-0031 一宮市観音町1番地の1
大阪営業技術推進部：電(06)6470-5860	〒661-8567 尼崎市浜1丁目1番1号
岡山営業技術推進部：電(086)279-4511	〒703-8216 岡山市宍甘275番地
米子営業技術推進部：電(0859)39-3181	〒689-3547 米子市流通町430-12
株式会社四国クボタ 営業技術課：電(087)874-8500	〒769-0102 香川県高松市国分寺町国分字向647-3
福岡営業技術推進部：電(092)606-3725	〒811-0213 福岡市東区和白丘1丁目7番3号
熊本営業技術推進部：電(096)357-6181	〒861-4147 熊本県下益城郡富合町大字廻江846-1
本社営業技術部：電(072)241-8092	〒590-0823 堺市堺区石津北町64番地

株式会社クボタ

機械札幌事務所：電(011)662-2121	〒063-0061 札幌市西区西町北16丁目1番1号
機械東日本事務所：電(048)862-1121	〒338-0832 さいたま市桜区西堀5丁目2番36号
機械西日本事務所：電(06)6470-5970	〒661-8567 尼崎市浜1丁目1番1号
機械福岡事務所：電(092)606-3161	〒811-0213 福岡市東区和白丘1丁目7番3号



このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者
が一体となって安全宣言を行うための統一マークです。



陸内協排出ガス自主規制適合

このラベルは、(社)日本陸用内燃機関協会
の小形汎用ガソリンエンジン排出ガス自主
規制に適合していることを示しています。

株式会社クボタ

本 社 大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号 ☎556-8601

品番 KK211-6415-3